

—令和2年度発掘調査報告—

埋蔵文化財調査報告書

2022年8月

福崎町教育委員会

—令和2年度発掘調査報告—

埋蔵文化財調査報告書

2022年8月

福崎町教育委員会

あ い さ つ

埋蔵文化財は、わたしたちの暮らす地域の歴史を知るうえで、かけがえのない文化遺産です。福崎町では、開発等によって誰にも存在が知られないまま埋蔵文化財が失われてしまわないように、事前に調査を行うことで保護を図っています。

令和2年度は、民間開発に伴う発掘調査のほか、高岡・福田地区は場整備事業及び山崎地区は場整備事業に伴う試掘確認調査を実施しました。これら調査を行うことで、事業着手前に遺跡の存在を確認することができ、誰にも知られないまま遺跡が消失することを防ぐことができます。

このたび、これら調査の結果をまとめ、報告書を刊行いたしました。ご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり工事関係者をはじめ多くの方々に、ご理解とご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

令和4年8月

福崎町教育委員会

教育長 高橋 渉

例 言

1. 本書は、福崎町教育委員会が令和2年度国庫補助事業として実施した発掘調査報告書である。
また、報告書作成のため、令和4年度の国庫補助事業の一環として遺物整理作業を実施した。
2. 調査は、福崎町教育委員会が主体となり実施した。経費は、国庫補助金である。
3. 報告書は同じく補助金を充て福崎町教育委員会が主体となり作成した。
4. 調査体制は以下の通りである。

調査・管理事務局

教 育 長 高橋 渉

社会教育課長 松田 清彦（令和2年度）

社会教育課長 木ノ本雅佳（令和4年度）

社会教育課副課長 森 公宏

社会教育課係長 藤原 元（令和2年度）

社会教育課主査 長谷川幸子

社会教育課主査 楠口 碧

社会教育課主事 井奥 直人（令和4年度）

整理作業・報告書担当

社会教育課主査 楠口 碧

埋蔵文化財専門員 渡辺 昇

整理作業員 梶 智美

整理作業員 福永 明子

整理作業員 原井川奈美

整理作業員 常陰ひとみ

5. 本書に使用した方位は基本的に磁北で、標高は福崎町設定の基準点を使用している。
6. 本書に掲載した図のうち調査地点の位置は福崎町発行の都市計画図（1/2,500）を、グリッド等配置図は福崎町都市計画図（1/500）を編集したものである。調査地点の位置は1/5,000、グリッド配置図は1/1,000で示している。縮尺の異なるものについては各図の下に示している。
7. 掲載する遺跡はすべて福崎町教育委員会が調査主体となり実施した。整理作業も同様である。
8. 執筆は楠口・渡辺が行い、編集は梶・福永・原井川・常陰の協力を得た。
9. 本報告に係る図面、写真、遺物等は、福崎町教育委員会にて保管している。
10. 調査・整理作業において多くの方々や機関にご指導・ご協力をいただきました。感謝します。

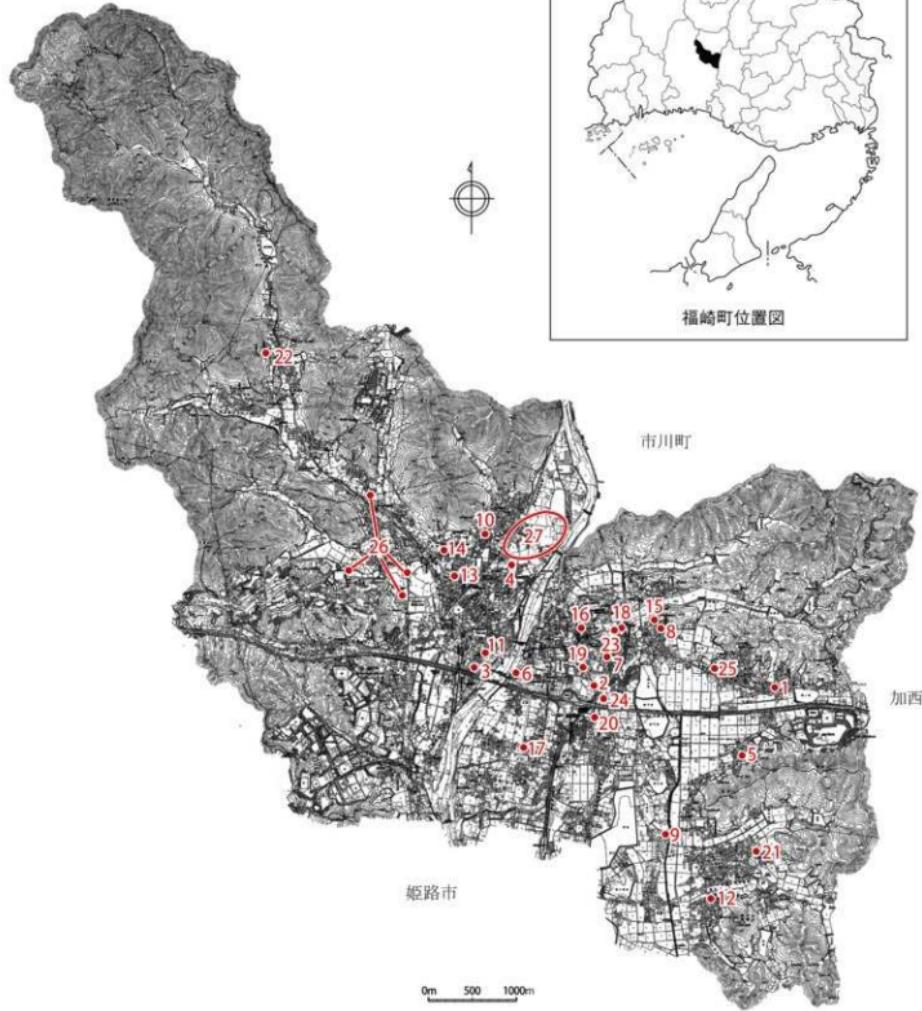
本文目次

あいさつ・例言

はじめに

令和2年度調査報告

1. 大貫字谷之内西試掘調査	1
2. 西田原字下野田試掘調査	3
3. 福崎新字町田試掘調査	5
4. 福田東田黒遺跡（第2次）	8
5. 大貫字南垣内試掘調査	11
6. 南田原字北西試掘調査	13
7. 西田原字上野田試掘調査	16
8. 東田原字山ノ上試掘調査	20
9. 八千種字小鶴池試掘調査	22
10. 山崎字才ノ神試掘調査	24
11. 福崎新字東出口試掘調査	26
12. 八千種字裏垣内試掘調査	28
13. 福田字寺ノ下試掘調査	30
14. 福田字中垣内試掘調査	32
15. 東田原字北屋敷試掘調査	34
16. 西田原字道北試掘調査（三木家住宅東）	36
17. 南田原条里遺跡（第46次）	39
18. 北野散布地（第10次）	41
19. 西田原字前田試掘調査	47
20. 南田原字北ノ垣内試掘調査	51
21. 八千種字廣野試掘調査	53
22. 田口字小屋垣内試掘調査	55
23. 北野散布地（第11次）	57
24. 南田原字金垣内試掘調査	59
25. 大貫字室ノ尾試掘調査	63
26. 高岡・福田地区は場整備事業に伴う試掘確認調査	65
27. 山崎地区は場整備事業に伴う試掘調査	73



令和2年度 埋蔵文化財調査一覧

No.	遺跡名	所在地	種別	調査期間	時代	遺構	遺物	調査面積
1	大貫字谷之内西 試掘	福崎町大貫字 谷之内西	試掘	4月2日 (1日)	—	なし	土師器 須恵器	2か所 8m ²
2	西田原字下野田 試掘	福崎町西田原字 下野田	試掘	4月6日 (1日)	—	ピット 落ち込み	弥生土器	2か所 8m ²
3	福崎新字町田 試掘	福崎町福崎新字 町田	試掘	4月15日 (1日)	—	なし	土師器 須恵器	4か所 16m ²
4	福田東田黒遺跡 (第2次)	福崎町福田字 東田黒	試掘	4月21日 (1日)	—	なし	弥生土器 土師器 須恵器	4か所 16m ²
5	大貫字南垣内 試掘	福崎町大貫字 南垣内	試掘	4月27日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4m ²
6	南田原字北西 試掘	福崎町南田原字 北西	試掘	5月19日 (1日)	—	なし	土師器	3か所 12m ²
7	西田原字上野田 試掘	福崎町西田原字 上野田	試掘	5月25日 (1日)	中世	溝	土師器 須恵器	6か所 24m ²
8	東田原字山ノ上 試掘	福崎町東田原字 山ノ上	試掘	5月25日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4m ²
9	八千種字小鶴池 試掘	福崎町八千種字 小鶴池	試掘	5月27日 (1日)	—	ピット	なし	2か所 18m ²
10	山崎字才ノ神 試掘	福崎町山崎字 才ノ神	試掘	5月27日 (1日)	—	なし	土師器	2か所 8m ²
11	福崎新字東出口 試掘	福崎町福崎新字 東出口	試掘	6月8日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8m ²
A	西田原上野田遺跡 (第5次)	福崎町西田原字 上野田	本発掘	6月15日～ 17日 (3日)	中世～ 近代	溝 落ち込み 土坑・櫛	土師器 須恵器 陶器・鉛玉	212m ²
C	桜東畠遺跡 (第1次)	福崎町高岡字 東畠	本発掘	7月1日～ 8月31日 (36日)	奈良	竪穴造構 掘立柱建物	土師器 須恵器 木簡	1,336m ²
B	桜竹之後遺跡 (第1次)	福崎町高岡字 竹之後	本発掘	9月1日～ 10月27日 (32日)	奈良	竪穴住居 掘立柱建物	土師器 須恵器	610m ²
12	八千種字裏垣内 試掘	福崎町八千種字 裏垣内	試掘	9月3日 (1日)	中世	土坑	土師器 須恵器	1か所 4m ²
13	福田字寺ノ下 試掘	福崎町福田字 寺ノ下	試掘	9月14日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4m ²
14	福田字中垣内 試掘	福崎町福田字 中垣内	試掘	9月23日 (1日)	—	ピット	土師器 陶器	1か所 4m ²
15	東田原字北屋敷 試掘	福崎町東田原字 北屋敷	試掘	9月28日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4m ²
16	西田原字道北 試掘	福崎町西田原字 道北	試掘	10月5日 (1日)	近代	土坑	瓦 陶器	2か所 13.2m ²

No.	遺跡名	所在地	種別	調査期間	時代	遺構	遺物	調査面積
17	南田原条里遺跡 (第46次)	福崎町南田原字 岸ノ上	確認	10月21日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4m ²
A	三木家住宅関連遺跡 (第1次)	福崎町西田原字 道北	本発掘	10月26日～ 29日 (4日)	近世	溝・石垣 落ち込み	陶磁器 瓦	90m ²
C	観音堂遺跡 (第3次)	福崎町高岡字 観音堂	本発掘	11月1日～ 12月11日 (32日)	奈良	掘立柱建物 溝・土坑	土師器 須恵器 製塙土器	360m ²
18	北野散布地 (第10次)	福崎町西田原	確認	11月4日 (1日)	弥生	ピット 土坑	弥生土器	8か所 32m ²
19	西田原字前田 試掘	福崎町西田原字 前田	試掘	11月10日 (1日)	—	なし	土師器 須恵器	5か所 20m ²
20	南田原字北ノ垣内 試掘	福崎町南田原字 北ノ垣内	試掘	11月11日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8m ²
A	南田原条里遺跡工事 立会	福崎町南田原	立会	11月12日～ 26日 (5日)	奈良 その他	なし	なし	—
C	長野多イ谷遺跡 (第1次)	福崎町高岡字 多イ谷	本発掘	12月1日～ 3月25日 (32日)	中世	溝・ピット 落ち込み	土師器 須恵器 製塙土器	694m ²
21	八千種字廣野 試掘	福崎町八千種字 廣野	試掘	12月2日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4m ²
22	田口字小屋垣内 試掘	福崎町田口字 小屋垣内	試掘	12月3日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8m ²
23	北野散布地 (第11次)	福崎町西田原字 向下降岡	確認	1月28日 (1日)	—	なし	なし	1か所 2m ²
B	桜遺跡 (第1次)	福崎町高岡字 岸ノ下	本発掘	2月4日～ 3月11日 (21日)	奈良	溝・ピット 落ち込み	土師器 須恵器 製塙土器	520m ²
24	南田原字金垣内 試掘	福崎町南田原字 金垣内	試掘	3月4日 (1日)	—	なし	土師器	5か所 20m ²
C	北野散布地 (第13次)	福崎町西田原	本発掘	3月8日～ 15日 (6日)	弥生	掘立柱建物 溝・土坑	弥生土器 土師器 須恵器	460m ²
25	大貫字室ノ尾 試掘	福崎町大貫字 室ノ尾	試掘	3月16日 (1日)	—	なし	埴輪 土師器 陶磁器	1か所 4m ²
26	高岡・福田地区 ほ場整備事業に伴う 試掘確認調査	福崎町 高岡・福田	試掘 確認	9月15日、 10月12日、14日 (3日)	奈良 中世 近世	ピット 溝	土師器 須恵器	9か所 36m ²
27	山崎地区 ほ場整備事業に伴う 試掘調査	福崎町山崎	試掘	11月16日～ 1月9日 (27日)	古墳	ピット 土坑	土師器	127か所 508m ²

Naの数字は目次の番号と一致する。

Naのアルファベット遺跡は、本書には掲載していない。A、Cは近年中に刊行予定、Bは町報告24を参照されたい。

はじめに

調査の方法

基本的に機械を使用できるところは0.1m級の重機を使用して調査を行った。20×2.0mのグリッドを基本としたが、遺跡の種類や現状の地形によってトレンチ調査を実施した地点・遺跡もある。

掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行ったのち、埋め戻し作業も行っている。

地理的環境

福崎町は中国山地の東端で、兵庫県中央部の市川中流域に位置している。東西10.4km、南北12kmの45.82km²の面積である。町域中央に南北に市川が流れ、東西には山崎安富断層沿いに中国自動車道が通っている。市川中流域に狭くなっている箇所があり、その間を福崎盆地と呼称している。南側は飾磨郡と神崎郡を分ける姫路市砥堀で、北は市川町と福崎町の町境である福崎町山崎である。現在の行政域は福崎町と姫路市に分かれているが旧郡は神崎郡である。町域は市川とその支流である七種川によって形成された段丘面が見られる。山裾には麓肩面と扇状地が広がり、谷部は谷底平野と氾濫原になっている。高岡・福田地区のは場整備地区で一部扇状地がある以外は、ほとんどの調査地点は段丘面から氾濫原・谷底平野に位置している。

今年度調査した遺跡・調査地点では南田原条里遺跡・福田東田黒遺跡や福崎新地区が氾濫原・谷底平野に、他は段丘面に位置している。

歴史的環境

福崎町内では旧石器時代から近世の遺跡の存在が知られている。旧石器時代のナイフ形石器が南田原植川遺跡・南田原条里遺跡・西広畠遺跡・大門遺跡から散発的に出土している。縄文時代になると、草創期の有舌尖頭器が南田原の西光寺で採集され、前期の土器は西大貫遺跡・加治谷大垣内遺跡で、後期の土器は西田原穴田遺跡・加治谷藪下五反畠遺跡で出土している。遺構は落とし穴が八千種庄北挾遺跡・八千種庄古屋敷遺跡・八千種庄春日遺跡の春日山西麓でまとめて確認されている。後期と思われる。晩期になると大門岡ノ下遺跡で堅穴住居が検出されており、石棒が出土している。

弥生時代前期の遺構の様相は不明であるが、中期になると遺跡数は増加する。南田原長目遺跡・上大明寺遺跡・北野寺西遺跡・西広畠遺跡・南田原条里遺跡・玉屋遺跡・西治下代ノ下モ遺跡などがある。朝谷遺跡・宮山遺跡からは土器棺が出土している。

古墳時代の集落遺跡は、上大明寺遺跡・加治谷藪下五反畠遺跡・西治下代ノ下モ遺跡・林谷遺跡があり、いずれも堅穴住居が検出されている。加治谷藪下五反畠遺跡・林谷遺跡のものはカマドを伴う。古墳は、高橋古墳群が最古で古墳時代中期の築造である。箱式石棺群で3号墳、4号墳の2基の調査がされており、鉄剣が出土したと伝わる。相山古墳は町内で唯一埴輪が出土している。円筒埴輪を中心に、人物埴輪と思われるものも確認されている。後期になると、それまで丘陵上に築かれていた古墳は、山裾や平野部に増加する。妙徳山に所在する妙徳山古墳は、神崎郡でも最大級の石室を有する円墳である。谷川の南岸には東広畠古墳や東新田古墳などが所在し、いずれも鉄刀、馬具、鉄鎌などの鉄製品のほか耳環、勾玉、管玉などの装身具が出土している。

律令制が敷かれると、福崎町域は神前郡となる。南田原条里遺跡からは役所的遺構と考えられる大型の掘立柱建物が確認されている。高岡地区の矢口遺跡からは帶金具が出土しており、郡衙関連遺構が所在していた可能性がある。桜東畠遺跡など高岡地区の遺跡からは製塙土器が多く出土しており、高岡里の中心部であった可能性が高い。福田無量寺跡では、福田地区固寧倉の解体工事中に多量の瓦が検出された。名字が無量寺であることから寺院の可能性がある。

中世になると福崎町内には田原莊、高岡莊、藤山莊が成立する。市川町、加西市、福崎町にまたがって高峰山城、八千種地区に春日山城、姫路市香寺町にまたがって高橋城が築かれる。

1. 大貫字谷之内西試掘調査

所在地 神崎郡福崎町大貫字谷之内西 1670-13
事業名 倉庫新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 8 m²
調査期間 令和2年4月2日（木）

○調査に至る経過

倉庫新築工事に伴う事前調整があり、工事予定箇所の周囲で調査歴がないこと、工事箇所が段丘面に位置していることから、令和2年3月16日（月）に予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和2年4月2日（木）に試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、休耕田であった。倉庫建築予定地にグリッドを2か所設けた。表土は重機で掘削し、壁面は人力で精査した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川の支流である平田川右岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置付けられる。

調査地点の南西側には縄文時代の遺跡として知られている西大貫遺跡が所在する。その北側の丘陵上には古墳時代後期前半に位置付けられる相山古墳が所在し、町内で唯一埴輪をもつ古墳として知られている。

また、当該地の南側には下遺跡、南西側には古墳時代から中世の集落遺跡として知られるタイノ前遺跡が所在する。

調査地点周辺は古くから集落を形成しており、過去に調査が行われておらず、新たな遺跡が発見される可能性が高い地区である。

○調査の概要

G 1

建物建築予定地に設定した。6層から成っている。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は褐シルト質中砂、第4層は暗褐シルト質粗砂、第5層はにぶい黄褐砂層、第6層は黄褐砂層である。第4、5層は土砂堆積層と思われる。

第4層から須恵器片や土師器片が出土したが小片のため時期は不明である。顯著な遺構は確認されなかった。

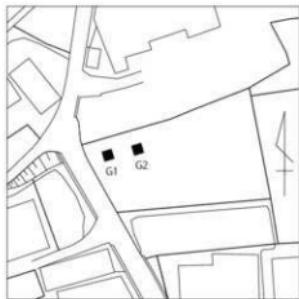
G 2

G 1で遺物包含層が確認されたことから、建物建築予定地東端に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は褐シルト質中砂、第4層は暗褐シルト質粗砂である。遺物包含層が確認されなかったことから、第4層で掘削を停止した。

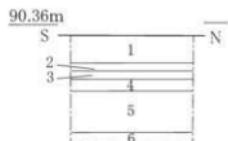
○まとめ

今回の調査では、須恵器片等を含む遺物包含層がG 1から確認された。ローリングをほとんど受けていないため、近接して遺構が所在していたかもしれない。東大貫地区ではこれまでの調査歴がほとんどなかったため、今回の調査で遺跡が所在する可能性を示すことができた意義は大きい。

G 1が遺物包含層を確認できる南東端と考えることができ、遺跡は北西側に所在している可能性が高い。



グリッド配置図



G1



G2

- 1 耕土
- 2 床土
- 3 黄褐 (10YR4/4) シルト質中砂
- 4 暗褐 (10YR3/4) シルト質粗砂
- 5 にぶい黄褐 (10YR5/4) 砂層 6の土含む
- 6 黄褐 (2.5Y5/3) 砂層



土層図



重機掘削



G 1 (東から)



G 2 (東から)



作業のようす

2. 西田原字下野田試掘調査

所在地 神崎郡福崎町西田原字下野田 1745 番、1746 番
事業名 グランド・露天駐車場設置工事
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇
調査面積 8 m²
調査期間 令和2年4月6日（月）

○調査に至る経過

工事立会中に土器片が採集されたことから、協力を得て令和2年4月6日（月）に試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、休耕地である。工事着手後に調査協力を得たため、重機は工事業者のものを使用した。

開発事業区域にグリッドを2か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分は段丘上に位置する。

周知の遺跡としては、北に西田原上野田遺跡、西には西田原前田遺跡があり、ともに奈良時代から中世の遺物包含層が広く確認されている。西田原上野田遺跡では、第4次調査で弥生時代後期から中世の遺跡が確認されており、近年、開発に伴う遺跡の発見が顕著な地区である。

○調査の概要

G 1

南側の筆に設定した。3層から成っている。第1層は褐シルト質粗砂、第2層はオリーブ褐砂層、第3層は明黄褐シルト質粗砂（地山）である。第3層からピット及び落ち込みが確認された。土器片を含む。図化したのは土師器碗である。

G 2

北側の筆に設定した。層序はG 1と同じである。第2層は耕作に伴うものと思われる。

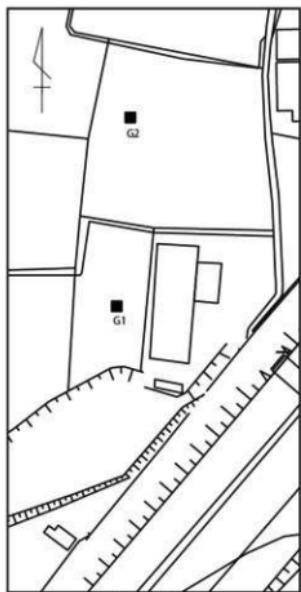
顕著な遺構は確認されなかった。

○まとめ

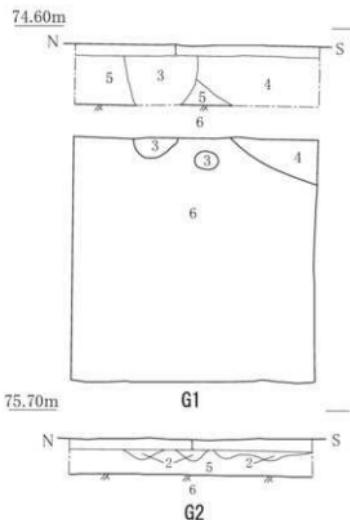
今回の調査では、G 1から遺構が確認された。弥生土器片や土師器片が採集されたが、土器片が小片で磨滅が激しいことから流れ込みによるものと考えられる。G 2では第2層がG 1より薄いことが確認でき、遺構面が削平されていたと考えられる。遺物も皆無であった。

G 1を設定した筆から遺構が確認されたことから、今後は西田原下野田遺跡と命名し、遺跡発見届を県に進呈することで対応する。

なお、遺構面は調査時の地盤面から10cm下で確認されたが、地盤改良のため30cm程度耕土が移動された後であった。工事については調査時の地盤面から30cm以上の盛土が行われ、保護層が確保できることと、基礎工事による掘削が幅40cmと狭小であることから慎重工事で対応する。



グリッド配置図



- 1 褐シルト質粗砂 (10YR4/4)
- 2 にぶい黄褐色シルト質粗砂 (10YR4/3)
- 3 黒シルト質極細砂 (10YR1.7/1)
- 4 黒シルト質極細砂 (10YR1.7/1) にオリーブ褐 (2.5Y4/3) 色土混ざる
- 5 オリーブ褐砂層 (2.5Y4/3)
- 6 明黄褐色シルト質粗砂 (2.5Y6/6) (地山)



出土土器



遺物実測図



土層図

番号	種別	器種	調査区	法量 (cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	土器器	椀	G1	(13.0)	残3.2		ヨコナデ	ヨコナデ	

遺物観察表



G 1 (東から)



G 2 (東から)

3. 福崎新字町田試掘調査

所在地 神崎郡福崎町福崎新字町田 394-1 他
事業名 店舗新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 16m²
調査期間 令和2年4月15日（水）

○調査に至る経過

宅地造成工事に伴う事前調整があり、埋蔵文化財の有無を確認するため、令和2年4月3日（金）付けで予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和2年4月15日（水）に試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。店舗新築予定地にグリッドを4か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は東に市川、西に七種川に挟まれた氾濫原に位置する。近接して周知の埋蔵文化財包蔵地は所在せず、北に600m程度離れたところに弥生から中世に渡る集落遺跡である中溝遺跡があり、その300m東に位置する馬田字スガキでの試掘調査では包含層が検出され、土師器や須恵器が確認されている。

○調査の概要

東から順に番号を付した。

G 1

5層から成る。第1層は表土、第2層は造成土、第3層は黒褐シルト質粗砂、第4層は黄灰褐砂層、第5層は地山で褐砂層である。地山からピット及び溝状の落ち込みが確認されたが、自然地形によるものと思われる。地山直上から土師器片が採集されたが小片であり、ローリングを受けていることから二次的移動によるものと思われる。顕著な遺構は確認されなかった。

G 2

6層から成る。第1層は表土、第2層は造成土、第3層は黒褐シルト質粗砂、第4層はオリーブ褐シルト質粗砂、第5層は黄灰褐砂層、第6層は地山で褐砂層である。G 1と同様に暗褐色土を埋土にもつ落ち込みが確認されたが、自然地形によるものと思われる。顕著な遺構、遺物ともに確認されなかった。

G 3

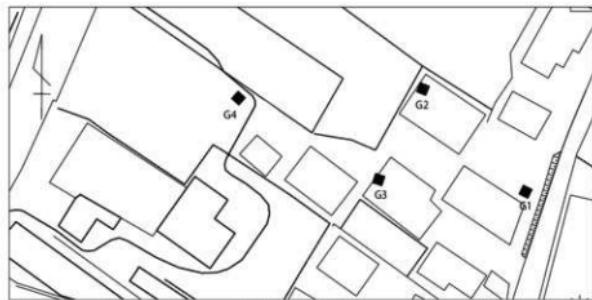
4層から成る。第1層は造成土、第2層は灰黄褐シルト質粗砂、第3層は黄褐砂層、第4層は地山で褐砂層である。顕著な遺構、遺物ともに確認されなかった。

G 4

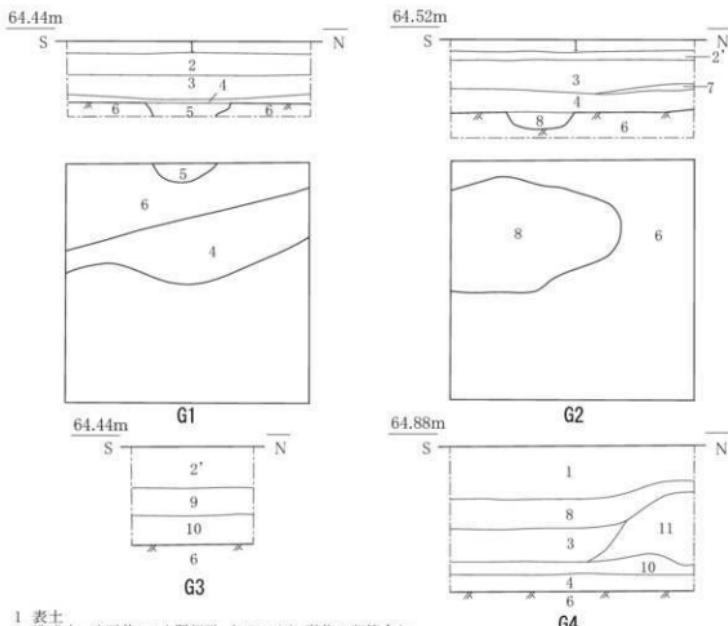
6層から成る。第1層は表土、第2層は暗褐シルト質粗砂、第3層は黒褐シルト質粗砂、第4層は黄褐砂層、第5層は黄灰褐砂層、第6層は地山で褐砂層である。顕著な遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回設定したすべてのグリッドから河川堆積層が確認された。土層の堆積状況もほぼ同じであり、G1から土器片が認められたが磨滅しているため二次的移動によるものと考えられる。安定した面も確認されなかったことから、遺構の希薄な地点と考えられる。



グリッド配置図



- 1 表土
- 2 造成土 暗灰黄シルト質粗砂 (2.5Y4/2) 現代の瓶等含む
- 2' 造成土
- 3 黒褐色シルト質粗砂 (10YR4/2)
- 4 黄灰褐色砂層 (10YR4/2)
- 5 にぶい黄褐色砂層 (10YR3/3)
- 6 揭砂層 (7.5YR4/6) に4の土混ざる (地Ⅱ)
- 7 オリーブ褐色シルト質粗砂 (2.5Y4/3)
- 8 暗褐色シルト質粗砂 (10YR3/4)
- 9 灰黄褐色シルト質粗砂 (10YR3/2)
- 10 黄褐色砂層 (2.5Y5/3)
- 11 オリーブ褐色シルト質粗砂 (10YR3/4)



調査前（西から）



重機掘削



G 1（東から）



G 2（東から）



G 3（東から）



G 4（東から）



作業のようす



埋め戻し後

4. 福田東田黒遺跡（第2次）

所在地 神崎郡福崎町福田字東田黒 125-3 他
事業名 宅地造成工事
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇
調査面積 16m²
調査期間 令和2年4月21日（火）

○調査に至る経過

令和2年4月9日（木）に、工事主体者から周知の埋蔵文化財・古墳・城郭等の発掘届出が提出された。令和2年4月21日（火）に確認調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、休耕田であった。道路敷設予定地を中心に、グリッドを4か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川西岸に位置し、市川が作った低位氾濫原に位置する。東隣の宅地造成に伴って実施された平成19年度の第1次調査では、氾濫原内における微高地において中世の遺構の広がりが確認された。また、低い部分では拳大から人頭大の河原石が堆積していたため、氾濫原の一部と判断された。

他に周辺に顯著な遺構は知られていないが、福田東田黒遺跡より北側には古墳時代後期の大塚古墳、北西には古墳時代の散布地として知られる清水遺跡が存在する。また、西側には近世の固寧倉が築造され、町指定文化財となっている。その下層からは、奈良時代から中世に属する瓦の出土があり、字が無量寺ということから古代寺院の存在を示唆しているが、周辺からはそれ以外の遺物の出土は知られていない。

○調査の概要

G 1

5層から成る。第1層は耕土、第2層は暗褐シルト質粗砂、第3層は黒褐シルト質中砂、第4層は黒シルト質細砂、第5層は地山で暗褐シルト質粗砂である。顯著な遺構は確認されなかつたが、第1～3層上層から弥生土器片が採集された。

G 2

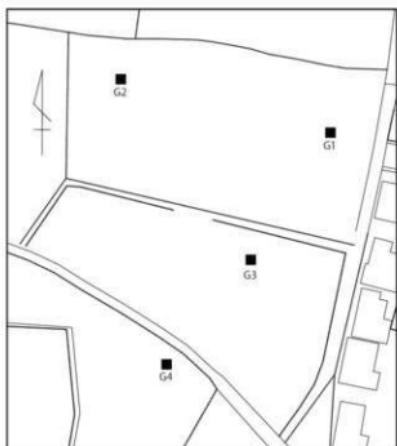
4層から成る。第1層は耕土、第2層は暗褐シルト質粗砂、第3層は黒シルト質細砂で、北側はオリーブ褐色シルト質粗砂が混ざる。地形の落ち込みによるものと考えられる。第3層上面から弥生土器片及び須恵器片、土師器片が採集された。

G 3

4層から成る。第1層は耕土、第2層は暗褐シルト質粗砂、第3層は黒シルト質細砂、第4層は地山で暗褐シルト質粗砂である。第3層上面から弥生土器片や土師器片が採集されたが、顯著な遺構は確認されなかつた。

G 4

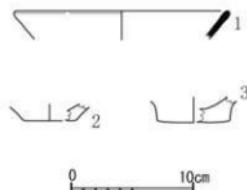
8層から成る。第1層は耕土、第2層は灰黄褐色シルト質粗砂、第3層は褐シルト質粗砂、第4層は暗褐シルト質粗砂、第5層は暗褐シルト質粗砂、第6層は黒褐シルト質中砂、第7層は黒シルト質細砂、第8層は地山でオリーブ褐色シルト質粗砂である。



グリッド配置図

○まとめ

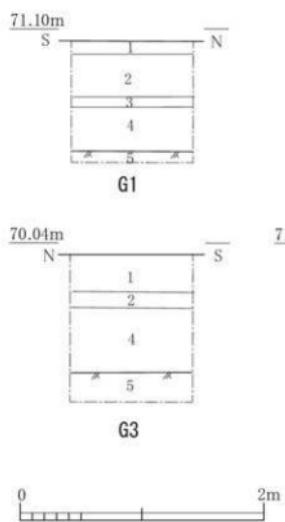
今回の調査では黒色土層上面を中心に、弥生土器片や須恵器片、土師器片が採集された。いずれもローリングを受けている。平成19年に今回の調査地点の東側で行われた第1次調査でも、同様の遺物が出土している。時期は、弥生時代後半と中世である。地形は北へと高くなっている、遺物は流れ込みによるものと考えられる。



遺物実測図

番号	種別	器種	調査区	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	須恵器	椀	G2	(17.4)	残2.3		ロクロナデ	ロクロナデ	
2	弥生土器	壺	G3		残1.1	(4.4)			
3	弥生土器	壺	G3		残2.1	(6.0)			

遺物観察表



土層図

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト質粗砂 (耕土)
- 2 暗褐 (10YR3/3) シルト質粗砂
(明黄褐色 (10YR6/8) の粒含む)
- 3 黒褐 (10VR3/2) シルト質中砂
- 4 黒 (10R1.7/1) シルト質細砂
20 cm 大円礫まれに含む
- 5 暗褐 (10YR3/3) シルト質粗砂
5 ~ 20 cm 大円礫含む (地山)
- 6 黒褐 (10YR3/1) シルト質粗砂
(オリーブ褐色 (2.5Y4/6)
シルト質粗砂の色土混ざる)
- 7 灰黄褐色 (10YRA4/2) シルト質粗砂
- 8 褐 (10YR4/4) シルト質粗砂
- 9 暗褐 (10YR3/3) シルト質粗砂
- 10 オリーブ褐色 (7.5Y4/4)
シルト質粗砂 (地山)



出土土器



重機掘削



作業のようす



G 1 (東から)



G 2 (東から)



G 3 (西から)



G 4 (東から)



埋め戻し後

5. 大貫字南垣内試掘調査

所在地 神崎郡福崎町大貫字南垣内 391 番 1
事業名 宅地造成工事
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4 m²
調査期間 令和2年4月27日（月）

○調査に至る経過

宅地造成工事に伴う事前調整があり、工事予定箇所の周囲で調査歴がないこと、工事箇所が段丘面に位置していることから、令和2年4月21日（火）に予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和2年4月27日（月）に試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。開発予定地にグリッドを1か所設けた。表土は重機で掘削し、壁面は人力で精査した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川の支流である平田川東岸に位置し、地形区分上は高位段丘面に位置付けられる。調査地点の北側には古墳時代から中世の遺跡として知られるタイノ前遺跡が所在する。調査地点周辺は、古くから集落を形成しており過去に調査が行われておらず、新たな遺跡が発見される可能性が高い地区である。

○調査の概要

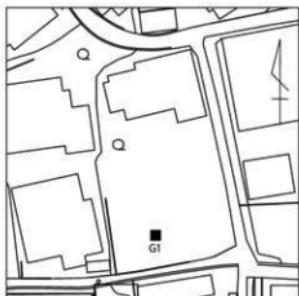
G 1

建物建築予定地に設定した。3層から成っている。第1層は耕土、第2層は明赤褐色シルト質粗砂で造成土、第3層は明赤褐色シルト質粗砂（地山）である。以前は建物があったようで、第1層には現代の瓦が混ざっていた。第2層には暗褐色土が混ざっており、しまりも弱いことから造成土と考えられる。

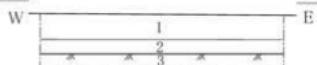
顯著な遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、遺構、遺物ともに確認されなかった。調査地点は從来斜面であり、宅地化した際に地山を削平、造成したものと考えられる。



95.22m



G1

- 1 暗褐色 (10YR4/4) シルト質粗砂 (耕土)
- 2 明赤褐色 (5YR5/8) シルト質粗砂
- 3 明赤褐色 (5YR5/8) シルト質粗砂 (地山)

0

2m

土層図



調査前（南東から）



作業のようす



G 1 (南から)



埋め戻し状況

6. 南田原字北西試掘調査

所在地 神崎郡福崎町南田原字北西 2713 番 12
事業名 宅地造成工事
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇
調査面積 12m²
調査期間 令和2年5月19日（火）



調査地点の位置

○調査に至る経過

宅地造成工事に伴って遺跡照会があり、埋蔵文化財の所在の有無と状況を確認するための試掘調査の必要性を伝えた。それを受けた令和2年5月15日（金）付けで予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和2年5月19日（火）に試掘調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、休耕田であった。開発予定箇所には2枚の田があり、西側に2か所、東側に1か所グリッドを設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては入力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、氾濫原にある。当該地の南に位置する南田原条里遺跡内では氾濫原の中の微高地上に遺跡が所在していることから、遺跡の有無を確認する必要があると考えられた。

近接する南田原桶川遺跡では、遺跡内に安徳寺や桶川の泉が存在する。平成24年度の第4次調査では、遺構や遺物は見つかってはいないが、遺構の端部を示すと考えられる土層の堆積が検出された。また、北東側に位置する平成10年度の第2次調査では、包含層と溝状遺構やビットが見つかっており、主に、旧石器時代、弥生時代、中世（12～15世紀代）の少量の遺物が見つかった。その南に位置する平成23年度の第3次調査では、遺構は見つかっていないが近世の遺物が少量見つかった。

○調査の概要

G 1

調査区の西に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は黄褐色シルト質細砂、第4層は灰黃褐色砂層、第5層はにぶい黄褐色砂層である。

床土から土師器片が出土したが、二次的移動によるものと思われる。顯著な遺構は確認されなかつた。

G 2

G 1 の東側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はオリーブ褐色シルト質中砂、第4層は灰黃褐色砂層である。第4層から土師器片が出土したため、第4層以下に遺構面がないか確認するため断ち割りを行ったが、顯著な遺構は確認されなかつた。出土した土器は土師器壺の口縁部である。古墳時代前期のものと思われる。

G 3

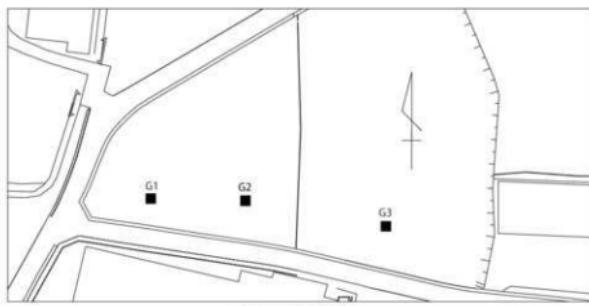
筆をまたいでG 2 の東側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は黄褐色シルト質細砂、第4層は灰黃褐色砂層である。

床土から須恵器片が出土したが、二次的移動によるものと思われる。顯著な遺構は確認されなかつた。

○まとめ

今回の調査では遺構は確認されなかったが、すべてのグリッドから二次的移動による土器片が確認された。第4～6層は西側に流れる市川の氾濫による河川堆積層と考えられ、出土した土器片は流れ込みのものと思われる。土器片は小片であった。

土器片が市川の氾濫によるものと考えると、調査地点の北方向に所在する遺跡は西田原堂ノ前遺跡があり、奈良時代から中世の遺跡として知られている。現在、古墳時代の遺跡は周辺では知られていないが、今後の調査により確認されることが期待される。



グリッド配置図



土層図



出土土器



遺物実測図

番号	種別	器種	調査区	法量 (cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	土器片	壺	G2	(9.0)	残 4.25		ハケメ	ハケメ	

遺物観察表



調査前（西から）



重機掘削



G 1（東から）



作業のようす



G 2（東から）



G 2 断ち割り（東から）



G 3（東から）



埋め戻し後

7. 西田原字上野田試掘調査

所在地 神崎郡福崎町西田原字上野田 1828 番他
事業名 宅地造成工事
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇
調査面積 24m²
調査期間 令和2年5月25日（月）

○調査に至る経過

令和2年5月15日（金）に、工事主体者代理人から予備調査依頼書が提出された。令和2年5月25日（月）に協力を得て試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田及び宅地であった。開発予定地にグリッドを6か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分上は中位の段丘面に位置付けられる。周知の遺跡としては、南西に西田原前田遺跡があり、奈良時代、中世の遺物包含層が確認されている。西には西田原辻ノ前遺跡が存在している。

今回の調査地点より西で実施された平成5年度の第1次調査では、ピット状遺構が確認され、中世の須恵器が出土している。また、北西で実施された平成28年度の第2次調査では、中世の遺物を含む包含層が確認されている。平成29年度に商業施設北側で実施された宅地造成に伴う第3次調査で遺構が確認されたため、平成30年4月に本調査（第4次調査）を実施したところ、弥生時代後期から近世にわたる遺構が確認された。

○調査の概要

G 1

調査地点南側の宅地跡に設定したグリッドである。
2層から成っており、第1層は表土、第2層は造成土、第3層は地山である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

G 2

調査地点西側で、道路予定地部分に設定したグリッドである。
3層から成っており、第1層は耕土、第2層は床土、第3層は地山である。床土の下に黒褐色土の溝状遺構が2条確認された。どちらからも土師器片と思われる土器片が出土している。西側の溝状遺構の北壁側を20cm程度断ち割ったところ、深さは48cmであった。

G 3

G 2の北側で、道路予定地部分に設定したグリッドである。
4層から成っており、第1層は耕土、第2層は床土、第3層は暗褐シルト質粗砂、第4層は地山である。第3層から須恵器片が出土した。

顯著な遺構は確認されなかったが、ローリングを受けていない須恵器片が確認されたため、遺構が存在する可能性が高いと判断できる。

G 4

調査地点中央付近で道路予定地部分に設定したグリッドである。

4層から成っており、第1層は耕土、第2層は床土、第3層は暗褐シルト質粗砂、第4層は地山である。地山からピットが確認されたが不明瞭である。顕著な遺構は確認されなかった。

G 5

G 4の南側で、道路予定地部分に設定したグリッドである。

5層から成っており、第1層は耕土、第2層は床土、第3層は黒褐シルト質粗砂、第4層はぶい黄褐シルト質粗砂、第5層は地山である。第3層から須恵器片が出土したが、顕著な遺構は確認されなかった。

G 6

調査地点東側で住宅建築予定地に設定したグリッドである。

3層から成っており、第1層は耕土、第2層は床土、第3層は地山である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

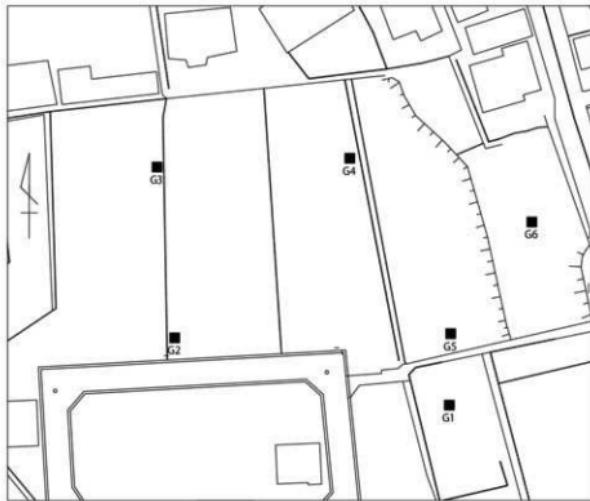
今回の調査で、G 2から溝状遺構、G 3から須恵器片が確認された。G 3から確認された須恵器片は、他のグリッドから出土した土器片と比べ、ローリングを受けておらず、近接して遺構があることを示すと判断する。平成30年度に実施した第4次調査では、G 2の西側で掘立柱建物が確認されているため、一連の遺構の可能性が高いと考えられる。

調査地点の東側では須恵器片が出土したが、顕著な遺構は確認されなかった。G 5、G 6を設定した筆から東側にレベルが高くなっているため、G 5で出土した須恵器片はさらに東側で遺構があった可能性を示すものと考えられる。

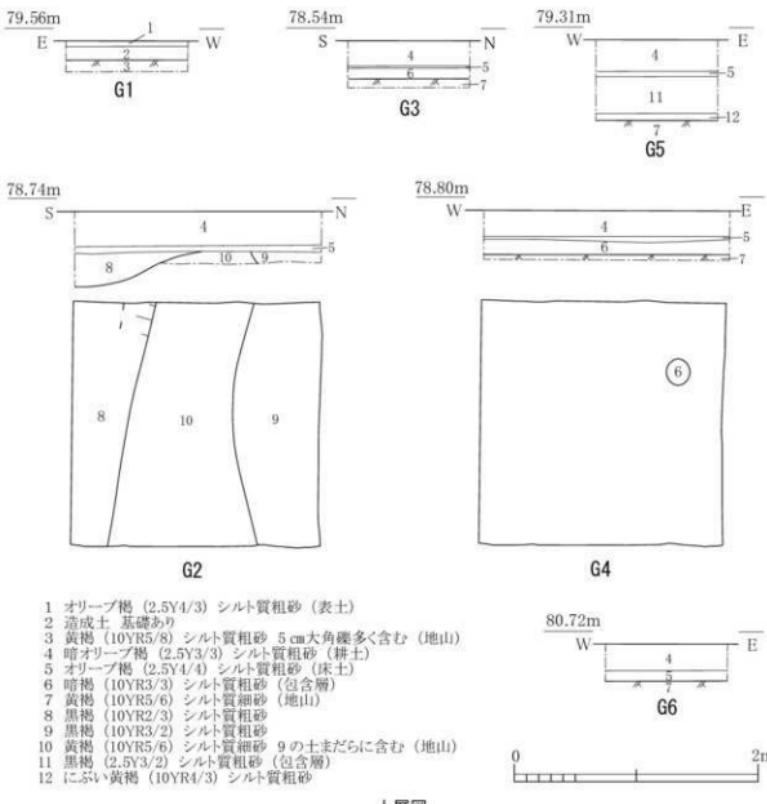
今後は、近接して所在する西田原上野田遺跡をG 2、G 3の方向へ拡張するかたちで遺跡の範囲変更を県教委に進達する。本調査対象が現段階では町道となる道路部分であるため、遺跡の拡張範囲については道路予定地東端付近までとし、住宅建築時においては該当する道路に面する宅地は第93条の届出をもって対応することとする。

なお、今回の宅地造成工事に関しては第93条の届出をもって本発掘調査を実施する。

工事にあたっては、G 2から溝状遺構、G 3から遺物包含層を確認したため、道路予定地に関しては宅地造成で1m程度盛土するようだが、調査対象となる。



グリッド配置図



土層図



調査前（東から）



重機掘削



G 1 (北から)



G 2 (東から)



G 3 (東から)



作業のようす



G 4 (南から)



G 5 (南から)



G 6 (南から)



埋め戻し後

8. 東田原字山ノ上試掘調査

所在地 神崎郡福崎町東田原字山ノ上 107
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4 m²
調査期間 令和2年5月25日（月）

○調査に至る経過

令和2年5月21日（木）に、工事主体者代理人から予備調査依頼書が提出された。令和2年5月25日（月）に協力を得て試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。開発予定地にグリッドを1か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分上は中位の段丘面に位置付けられる。

当該地は古くから集落を形成しており、埋蔵文化財調査がほとんど行われてこなかった地域である。南東方向ではほ場整備事業に伴い、大門遺跡池田地区、大門遺跡皿池ノ下地区が確認され、奈良時代から中世の集落跡が確認されている。また、北方向にはビワクビ古墳群が所在している。

○調査の概要

G 1

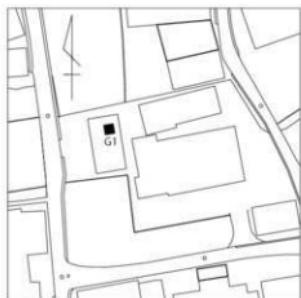
住宅建築予定地に設定したグリッドである。

3層から成っており、第1層は碎石、第2層は表土、第3層は地山である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、調査地点の北側にはビワクビ古墳群や岩尾神社などがあり、関連する遺跡の発見が期待されたが、遺構、遺物ともに確認されなかった。調査地点の周辺は、北から南に向かってなだらかに低くなっている。県道に近くなるにつれ傾斜がよりゆるくなっていく。調査地点では切土などが行われた可能性が高く、遺構が削平された可能性もあるが、遺跡は県道付近に所在する可能性が高いと考えられる。県道付近では、道路敷設工事によって消失した福崎町内で最大と考えられている大門池ノ下古墳の存在が知られている。



グリッド配置図



- 1 砕石
2 炙 (10YR4/4) シルト質粗砂 (表土)
3 明黄褐色 (10YR7/6) シルト質極細砂 (地山)



重機掘削



G 1 (南から)



埋め戻し状況



埋め戻し後

9. 八千種字小鶴池試掘調査

所在 地 神崎郡福崎町八千種字小鶴池 4114-39
事 業 名 農業用倉庫新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 18m²
調査期間 令和2年5月27日（水）

○調査に至る経過

当該地は段丘面に位置し、南西から南東部分に八千種庄上野田遺跡等5遺跡が所在するほか、東側に八千種庄春日遺跡が所在し、遺跡の密度が高い地域であるため遺構の発見が期待される地点である。そのことから調査協力を依頼し、令和2年5月18日（月）に事業主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和2年5月27日（水）に試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、畠地であった。農業用倉庫建設予定地の北側に2.0×7.0mのトレンチ、南東側に2.0×2.0mのグリッドをそれぞれ1か所ずつ設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川西岸に位置し、地形区分上は高位段丘面に位置付けられる。周知の遺跡は南西から南東部に八千種庄上野田遺跡、八千種庄下野田遺跡、八千種庄京田遺跡、八千種庄古屋敷遺跡、八千種庄北挾遺跡が、東側には八千種庄春日遺跡が所在し、縄文時代から中世にわたる遺跡であることが知られている。

○調査の概要

T 1

2層から成る。第1層は耕土、第2層が地山である。地山直上から長径30cm、短径20cm程度のピットが確認された。遺物は出土していない。当初は2.0m×2.0mのグリッドを設定したが、ピットが確認されたため、調査区を東に延長したところ遺構が確認されなかったため、調査を停止した。ピット検出箇所は、建物建築予定地から西に外れている。

G 2

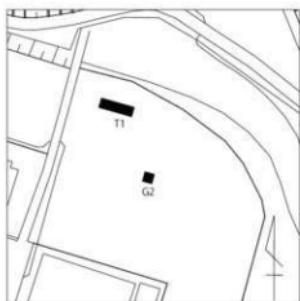
建物建築予定地の南東隅部分に設定したグリッドである。

2層から成る。層序はT 1と同じである。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、同じ段丘面に周知の埋蔵文化財包蔵地が知られていることから遺構の発見が期待されたが、確認できたのはピット1基のみであり、遺物も伴わないとから性格は不明であった。

ピットが1基確認されたことと、周辺の分布調査で中世の須恵器片が採集されていることから、今後も注意して調査を実施する必要がある。

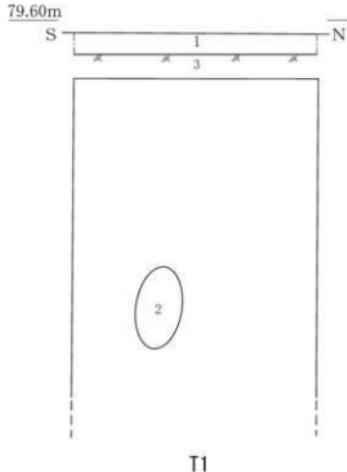


グリッド配置図

- 1 耕土
2 褐 (10YR4/6) シルト質粗砂 5 mm大の炭含む
3 黄褐 (10YR5/6) シルト質中砂 (地山)



土層図



調査前（北から）



重機掘削



T 1 (東から)



G 2 (北から)

10. 山崎字才ノ神試掘調査

所在地 神崎郡福崎町山崎字才ノ神 643-2
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇
調査面積 8 m²
調査期間 令和2年5月27日（水）

○調査に至る経過

令和2年5月18日（月）に、工事主体者代理人から予備調査依頼書が提出された。令和2年5月27日（水）に協力を得て試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地跡であった。開発予定地にグリッドを2か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分上は中位の段丘面に位置付けられる。

当該地は古くから集落を形成しており、埋蔵文化財調査がほとんど行われてこなかった地域である。南側には古墳時代の遺跡として知られる清水遺跡、北側の山崎地区から福田地区にかけての丘陵上には後期古墳が点在している。朝谷遺跡からは、弥生時代の壺棺が出土したと伝わる。

○調査の概要

G 1

住宅建築予定地に設定したグリッドである。

4層から成っており、第1層は表土、第2層はオーリープ褐シルト質粗砂、第3層は黒褐シルト質粗砂、第4層は地山である。

地山直上から土師器片が出土したが、顯著な遺構は確認されなかった。

G 2

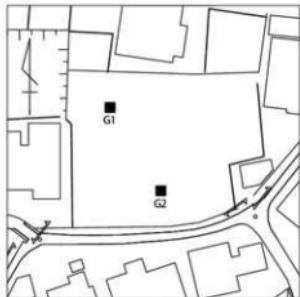
G 1の南側に設定したグリッドである。

4層から成っており、層序はG 1と同じである。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、調査地点の南側に清水遺跡が所在しており、段丘面に位置していることからも、遺構の確認が期待された。しかし、遺構は確認されず遺物も土師器片が確認されただけである。土師器は小片のため、時期は不明である。

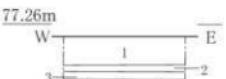
周辺はゆるやかに南に向かって傾斜しており、集落は切土等を行なながら造成されてきたようで、土師器片が出土したことから遺構が近辺に所在していた可能性があるが、後世の削平を受けた可能性も考えられる。



グリッド配置図



G1



G2

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト質粗砂 (表土)
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) シルト質粗砂 地山粒含む
- 3 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト質粗砂 マンガンたまる
- 4 明黄褐色 (2.5Y6/6) シルト質中砂 (地山)
- オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 色土混ざる(10 cm大角砾含む)



土層図



重機掘削



作業のようす



G 1 (南から)



G 2 (南から)

11. 福崎新字東出口試掘調査

所在地 神崎郡福崎町福崎新字東出口217番1、217番8
事業名 宅地造成工事
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇
調査面積 8m²
調査期間 令和2年6月8日（月）

○調査に至る経過

宅地造成工事に伴う事前調整があり、埋蔵文化財の有無を確認するため、令和2年6月2日（火）付けて工事主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和2年6月8日（月）に試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地跡及び雑地であった。宅地造成予定地にグリッドを2か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は東に市川、西に七種川に挟まれた氾濫原に位置する。近接して周知の埋蔵文化財包蔵地は所在せず、北に800m程度離れたところに弥生から中世にわたる集落遺跡である中溝遺跡があり、その300m東に位置する馬田字スガキでの試掘調査では包含層が検出され、土師器や須恵器が確認されている。

○調査の概要

北から順に番号を付した。

G 1

6層から成る。第1層は耕土、第2層は褐シルト質粗砂、第3層はにぶい黄褐砂層、第4層は暗褐砂層、第5層は褐砂層、第6層はにぶい黄褐砂層である。地表面から約90cm掘削したところで砂層の状況が変わらなかつたため掘削を停止したが、下層の状況を確認するために断ち割りを行つた。地表面から約120cmのところで20cm大の円碟が確認されたため、安定した地山面は検出できないものと判断し、掘削を停止した。

遺構、遺物ともに確認されなかつた。

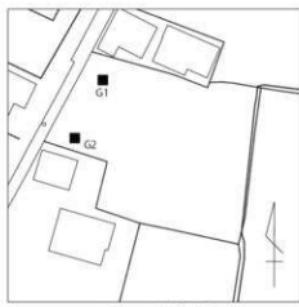
G 2

7層から成る。第1層は耕土、第2層は造成土、第3層は褐シルト質粗砂、第4層はにぶい黄褐砂層、第5層は暗褐砂層、第6層は褐砂層、第7層はにぶい黄褐砂層である。

遺構、遺物ともに確認されなかつた。

○まとめ

今回設定した両グリッドから河川堆積層が確認された。調査地点は地形区分上高位氾濫原であったため、微高地の遺構が確認される可能性があった。しかし、調査の結果河川堆積層が確認され、遺物も確認されなかつたことから、遺構が希薄な地域であると判断できる。

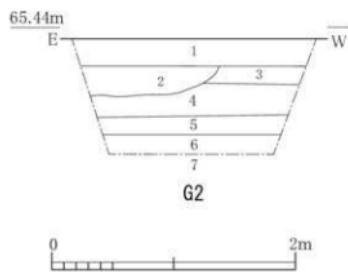


グリッド配置図

- 1 耕土
- 2 暗褐 (10YR4/3) (造成土)
- 3 褐 (10YR4/6) シルト質粗砂
- 4 にぶい黄褐 (10YR4/3) 砂層
- 5 暗褐 (10YR3/4) 砂層
- 6 褐 (10YR4/6) 砂層
- 7 にぶい黄褐 (10YR5/3 ~ 4/3) 砂層 20 cm大円錐じる



G1



G2

土層図



調査前（西から）



重機掘削



G 1 (東から)



G 2 (北から)

12. 八千種字裏垣内試掘調査

所在地 神崎郡福崎町八千種字裏垣内 3640-5
事業名 農業倉庫建築工事
調査担当 橋口 碧
調査面積 4 m²
調査期間 令和2年9月3日（木）

○調査に至る経過

令和2年8月31日（月）付けで、工事主体者から農業倉庫建築工事に先立つ予備調査依頼書が提出された。それを受け令和2年9月3日（木）に試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、畠地であった。倉庫建築予定地にグリッドを1か所設けた。掘り下げは工事に使用予定の重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川の支流である平田川東岸に位置し、地形区分上は高位段丘面に位置付けられる。当該地の南に所在する鍛冶屋遺跡は段丘面に広がる遺跡で、古代から中世にかけての遺物が採集されている。北側の段丘面には八千種庄古屋敷遺跡、八千種庄北挾遺跡が存在しており、平成9年度には場整備事業に伴って発掘調査が実施されている。西側の段丘面には、昭和52年と早い段階に弥生時代の方形周溝墓が調査された玉屋遺跡がある。

○調査の概要

G 1

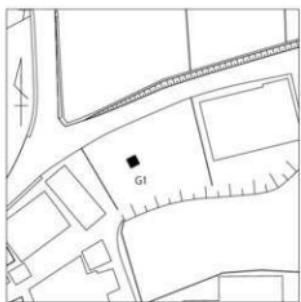
倉庫建築予定地中央付近にグリッドを設定した。

第1層は耕土、第2層はオリーブ褐シルト質粗砂、第3層は暗褐シルト質粗砂、第4層は地山である。耕土からは須恵器片、第3層からは中世のものと思われる須恵器片、土師器片が出土した。地山直上からは幅57cmの土坑が確認され、調査区の東側に延びる。

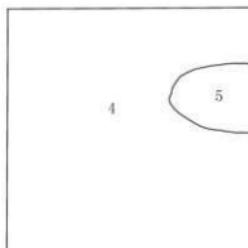
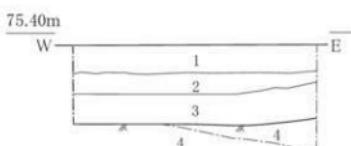
○まとめ

今回の調査では地山直上で土坑が確認された。また、包含層からは中世の遺物も出土している。今後は新たに鍛冶屋裏垣内遺跡として遺跡の範囲変更を県に進達し、工事にあたっては第93条の届出をもって対応する。

なお、建築予定倉庫の基礎は表土から30cmの深さであり、遺構面が表土から60cm程度下に所在することから十分な保護層が確保できていると言え、慎重工事で対応する。



グリッド配置図



土層図



出土土器



遺物実測図

番号	種別	器種	調査区	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	須恵器	椀	G1	(16.0)	残2.8		ロクロナデ	ロクロナデ	

遺物観察表



調査前（北から）



G 1 （南から）

13. 福田字寺ノ下試掘調査

所在 地 神崎郡福崎町福田字寺ノ下 499-1
事 業 名 個人住宅新築工事
調査担当 橋口 碧
調査面積 4 m²
調査期間 令和2年9月14日（月）

○調査に至る経過

当該地は高位氾濫原に位置しているが、南東部分に中溝遺跡が存在し、その構造が延びている可能性があることから、遺跡の存在する可能性が考えられた。そのことから調査協力をお願いし、令和2年9月4日（金）に工事主体者から予備調査依頼書が提出された。それを受けて令和2年9月14日（月）に試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。建物建築予定地にグリッドを1か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川西岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置付けられる。周知の遺跡は北東方向に清水遺跡が、南東方向に中溝遺跡が存在する。中溝遺跡は弥生時代後期から中世にわたる複合遺跡で、遺跡は北西から西方向にさらに延びている可能性が考えられる。

○調査の概要

G 1

4層から成る。第1層は造成土、第2層は旧耕土でオリーブ褐シルト質粗砂、第3層は旧床土で黄褐シルト質粗砂、第4層は河川堆積層で褐砂礫層である。

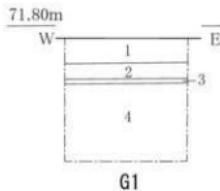
遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査地点は、中溝遺跡が所在する段丘面から北西方向にあり、同遺跡の広がりを確認されることが期待できたが、遺構、遺物は確認されず、七種川の氾濫による河川堆積層が確認された。中溝遺跡の広がりは、当地点より南側の福田集落の方向である可能性が高い。



グリッド配置図



G1

- 1 造成土
2 オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト質粗砂 (旧耕土)
3 黄褐色 (10YR5/6) シルト質粗砂 (旧床土)
4 褐色 (10YR4/6) 砂礫層 5 ~ 10 cm大円礫 (河川堆積層)



土層図



調査前（南から）



重機掘削



G 1 (南から)



埋め戻し状況

14. 福田字中垣内試掘調査

所在 地 神崎郡福崎町福田字中垣内 849-2
事 業 名 農業用倉庫新築工事
調査担当 橋口 碧
調査面積 4 m²
調査期間 令和2年9月23日（水）

○調査に至る経過

当該地は段丘面に挟まれた扇状地上に位置している。南東部分に中溝遺跡が存在し、その遺構面が延びている可能性があることから、遺跡の存在する可能性が考えられた。そのことから調査協力ををお願いし、令和2年9月10日（木）に工事主体者から予備調査依頼書が提出された。それを受けて令和2年9月23日（水）に試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、畠地であった。建物建築予定地中央にグリッドを1か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川西岸に位置し、地形区分上は扇状地に位置付けられる。周知の遺跡は南東方向に福田無量寺跡、北東方向に清水遺跡、南東方向に中溝遺跡が存在する。福田無量寺跡からは奈良時代から中世にわたる瓦が出土し、古代寺院の存在が近隣に存在する可能性を示している。中溝遺跡は弥生時代後期から中世にわたる複合遺跡で、遺跡は北西から西方向にさらに延びている可能性が考えられる。

○調査の概要

G 1

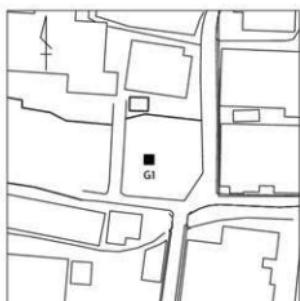
5層から成る。第1層は耕土、第2層は床土で黒褐色シルト質粗砂、第3層はにぶい黄褐色シルト質粗砂、第4層は褐褐色シルト質粗砂、第5層は褐褐色シルト質粗砂、第6層は褐褐色シルト質粗砂である。第4層以下は地山である。

第4層上面からピット状の遺構が2基確認された。遺構埋土からは土師器片が出土したが、小片のため時期は不明である。なお、第3層からは近現代の陶器片が出土しており、第4層の遺構面がすでに削平されている可能性が考えられる。

○まとめ

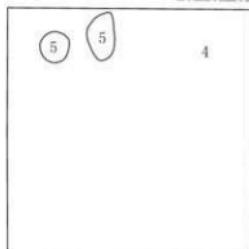
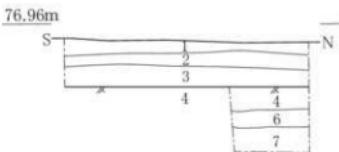
今回の試掘調査では、ピット状遺構が2基確認された。土器がほとんど出土していないため、遺構の時期は不明であり、性格も不明であることから今回は新規の遺跡発見として県に報告はせず、近隣の調査を待つことにしたい。

工事については、農業用倉庫基礎の掘削深度がピット状遺構検出面に及ばないことから慎重工事で対応する。



グリッド配置図

- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト質粗砂 (耕土)
- 2 黒褐色 (10YR3/2) シルト質粗砂 2 cm程度の角礫含む (床土)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質粗砂
地山の粒 (5mm 程) 含む
- 4 鑿 (7.5YR4/4) シルト質粗砂 5 cm大の角礫含む
- 5 暗褐色 (10YR3/3) シルト質粗砂 岩含む
- 6 鑿 (7.5YR4/4) シルト質粗砂
- 7 鑿 (7.5YR4/6) シルト質粗砂 5 cm大の角礫含む



G1

土層図



調査前（南西から）



重機掘削



G 1 (東から)



埋め戻し後

15. 東田原字北屋敷試掘調査

所在地 神崎郡福崎町東田原字北屋敷 61
事業名 資材置場新築工事
調査担当 橋口 碧
調査面積 4 m²
調査期間 令和2年9月28日（月）

○調査に至る経過

令和2年9月18日（金）に、工事主体者から予備調査依頼書が提出された。令和2年9月28日（月）に協力を得て試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。資材置場新築予定地にグリッドを1か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分上は高位段丘面に位置付けられる。当該地は古くから集落を形成しており、埋蔵文化財調査がほとんど行われてこなかった地域である。南東方向ではほ場整備事業に伴い、大門遺跡池田地区、大門遺跡皿池ノ下地区が確認され、奈良時代から中世の集落跡が確認されている。北西方向の低位段丘面で雲津川の左岸に位置する加治谷藪下五反畑遺跡は、縄文時代から中世にわたる複合遺跡である。西方向には縄文時代の堅穴住居が確認された大門岡ノ下遺跡が存在する。また、北方向にはビワクビ古墳群が所在している。

○調査の概要

G 1

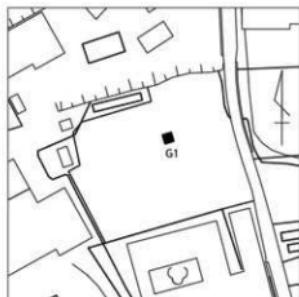
資材置場予定地中央に設定したグリッドである。

3層から成っており、第1層は耕土、第2層は床土、第3層は地山である。

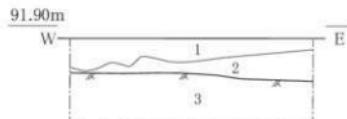
表土から近現代の土器片が確認された。顯著な遺構は確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、調査地点の北側にはビワクビ古墳群や岩尾神社などがあり、関連する遺跡の発見が期待できたが、顯著な遺構は確認されなかった。調査地点は耕土直下が地山であり、今年度実施した東田原字山ノ上の試掘調査でも表土下は地山であることから、現在集落が展開している地域は切土によって形成されていると考えられる。今後、継続して調査を進めることにより遺構の有無を判断していくきたい。



グリッド配置図



G1

- 1 暗褐（10YR3/3）シルト質粗砂（耕土）
- 2 褐（10YR4/6）シルト質中砂（床土）
- 3 明黄褐（10YR6/8）シルト質粗砂（地山）
5 cm大の縦、赤褐（2.5YR4/8）の縫合む



土層図



調査前（南東から）



重機掘削



作業のようす



G 1 （南から）

16. 西田原字道北試掘調査（三木家住宅東）
所在 地 神崎郡福崎町西田原字道北 1106-3
事 業 名 三木家住宅収蔵庫兼展示施設新築工事
調査担当 橋口 碧
調査面積 13.2m²
調査期間 令和2年10月5日（月）

○調査に至る経過

三木家住宅収蔵庫兼展示施設の建築予定があり、令和2年10月5日（月）に試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は駐車場であるが、以前は畠地であった。三木家住宅収蔵庫兼展示施設新築予定地に $2.0 \times 2.0\text{ m}$ のグリッドを 1 か所、 $4.6 \times 2.0\text{ m}$ のトレンチを 1 か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は宮山と呼ばれる山の南斜面に位置し、南に雲津川が流れる低位段丘面に位置付けられる。北西に弥生時代中期から古墳時代後期、中世、近世の遺跡である上大明寺遺跡、東に弥生時代から平安時代の集落跡として知られる北野散布地が近接しており、平成8年度に実施された分布調査においては、土器が濃密に散布しているのが確認されている。当該地の北側では、平成30年度に福崎町都市整備事業に伴い上坂遺跡が発見された。

○調査の概要

G 1

建物新築予定地北側に設定したグリッドである。

9層から成っており、第1層は碎石、第2、3層は造成土、第4層は旧耕土、第5層はオリーブ褐色シルト質粗砂、第6層は暗灰黄シルト質粗砂、第7層は暗オリーブ褐色シルト質粗砂、第8層はオリーブ褐色シルト質粗砂、第9層は地山で黄褐色シルト質粗砂である。旧耕土下から地山までの層は整地層と考えられ、近現代の瓦片や土器片などを含む。

顯著な遺構は確認されなかった。

T 2

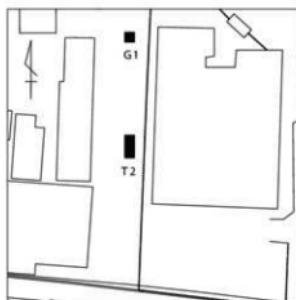
建物新築予定地南側に設定したトレンチである。

4層から成っており、第1層は碎石、第2層は造成土、第3層は旧耕土、第4層は地山である。地山直上に掘り込みが確認された。トレンチ南側に円形の土坑、北側に方形の遺構が検出され、どちらからも陶器片が出土した。

○まとめ

明治時代の絵図によると、調査地点には東座敷があったことが記録されている。今回の調査では、三木家住宅に関連する痕跡の発見が期待された。調査の結果、近世のものと思われる陶器が出土しており、確認された遺構は三木家住宅東座敷と関連する遺跡の可能性が高いと考えられる。

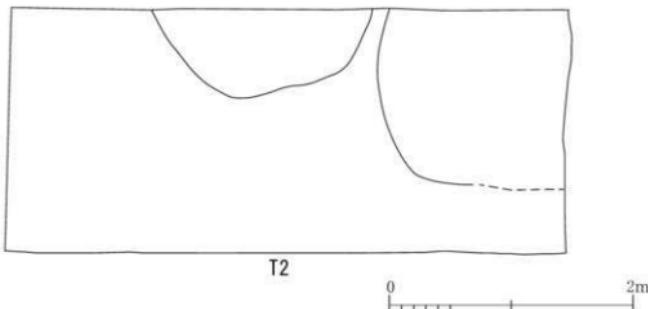
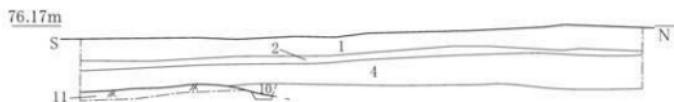
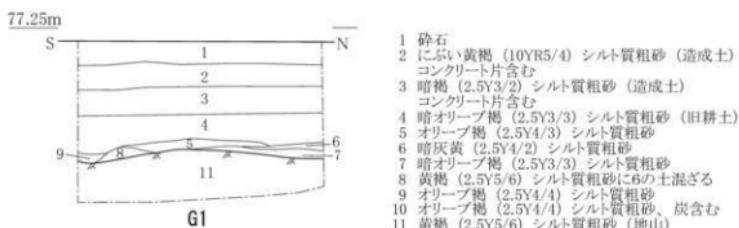
県に遺跡発見通知を進達し、工事により遺構が影響を受けるため第94条の通知をもって本調査で対応する。



グリッド配置図



出土土器



土層図



遺物実測図

番号	種別	器種	調査区	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	陶器	壺	T2	(8.0)	残3.0				
2	陶器	甕	T2		残7.2	(23.4)			

遺物観察表



調査前（北西から）



G 1（東から）



T 2（東から）



T 2（南から）



T 2 遺物出土状況



埋め戻し状況

17. 南田原条里遺跡（第46次）

所在地 神崎郡福崎町南田原字岸ノ上 2251番2他
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 橋口 碧
調査面積 4 m²
調査期間 令和2年10月21日（水）

○調査に至る経過

令和2年10月8日（木）に、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。令和2年10月21日（水）に確認調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。建物建築予定地にグリッドを1か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置付けられる。南田原条里遺跡では今まで45回の調査が行われている。弥生時代の溝や旧河道、古代のピットなどが検出されており、弥生時代の土器、石包丁等が出土している。また、奈良時代の掘立柱建物も検出されており、柱穴の大きさや稜楌が出土していることなどから役所的な遺構として位置付けられている。

○調査の概要

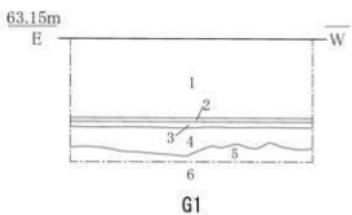
G 1

建物建築予定地にグリッドを設定した。
6層から成っている。第1層は造成土、第2、3層は床土、第4層は黒褐シルト質中砂、第5層は暗褐シルト質粗砂、第6層はにぶい黄褐シルト質粗砂である。第4層以下は河川堆積層と考えられ、第6層まで掘削したところで湧水があり、安全のためそれ以上の掘削を中止した。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

南田原条里遺跡内では近年の開発に伴い、弥生時代から中世の遺跡が所在することが明らかになりつつある。調査地点南西で行われた第17次調査では、調査区北東で溝状遺構が確認されており、遺構の広がりが確認される可能性があった。しかし、今回の調査地点では顕著な遺構が確認されなかつたことから、遺構の希薄な部分であると言える。



土層図



調査前（北から）



重機掘削



G 1 (北から)



埋め戻し後

18. 北野散布地（第10次）

所在地 神崎郡福崎町西田原 898番1他
事業名 宅地造成工事
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇
調査面積 32m²
調査期間 令和2年11月4日（水）

○調査に至る経過

宅地造成工事に伴う包蔵地の照会があり、開発地が北野散布地内であったため、届出の提出を求めた。令和2年10月12日（月）付けで事業主体者から第93条の発掘届出が提出され、令和2年11月4日（水）に確認調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。開発予定地にグリッドを8か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、市川ならびに支流である雲津川によって形成された段丘面にあたる。これまでの調査の結果、遺跡の北西部で礫層が出ていることからも南東から北西に向けて大きく傾斜していた地形であることが窺える。水田開発によって段丘面の高い部分が削平されたと思われる。

北野散布地は平成8年度に分布調査が実施され、広い範囲で遺物が採集され、濃密な遺物分布が確認された。当該地もその時に遺物が採集されている。須恵器、土師器が多く古代を中心とする遺跡と思われていた。第1次調査では遺物は出土したが明確な遺構は確認されなかった。遺跡の東端で実施した第4、5次調査では弥生時代末から古墳時代の竪穴住居や掘立柱建物のほか、平安時代の遺構も確認されており、当遺跡に継続して集落遺跡が所在していたことが明らかとなった。また、その東側で実施した第7、8次調査でも弥生時代の遺構が確認されている。

○調査の概要

開発予定地の中央南北方向に道路、その両側に宅地が設けられるとのこと、遺構の範囲を確認するためグリッドを8か所設定した。調査地点は北側と南側の筆に分かれ、道路に面した北側の筆の方が1m程度低くなっている。

G 1

開発予定地北西に設定したグリッドである。4層から成っている。第1層は耕土、第2層は黒褐色シルト質粗砂、第3層は黒褐色シルト質中砂、第4層は地山である。地山直上でピットを3基検出した。

G 2

開発予定地北東に設定したグリッドである。4層から成っている。第1層は耕土、第2層は改良土、第3層は造成土、第4層は地山である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

G 3

G 1とG 2の間に設定したグリッドで、遺構の範囲を確認するために設けたグリッドである。4層から成っている。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は黒褐色シルト質中砂、第4層は地山である。地山直上からピットが4基確認された。第2層から土器片や近現代のものと思われる瓦片が出土した。瓦が見つかったことから、土器片は二次的移動によるものと思われる。

G 4

G 3 の南側で、道路部分での遺構の範囲を確認するために設けたグリッドである。3層から成っている。第1層は耕土、第2層は造成土、第3層は地山である。遺構、遺物ともに確認されなかつた。

G 5

調査地点南側の筆の北東に設定したグリッドである。4層から成っている。第1層は耕土、第2層は黒褐色シルト質極細砂（明黄褐色土の粒含む）、第3層は黒褐色シルト質極細砂、第4層は地山である。第2層からは土器片が、第3層からは土坑が検出された。

G 6

G 5 の南西方向で道路部分に設定したグリッドである。4層から成っている。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は黒シルト質極細砂、第4層は地山である。第3層から土器片が出土したが、遺構は確認されなかつた。

G 7

調査地点南側の筆の北西に設定したグリッドである。5層から成っている。第1層は耕土、第2層は旧耕土、第3層は黒シルト質極細砂、第4層は黒褐色シルト質極細砂、第5層は地山である。第3層から土器片が出土した。地山直上からビットが3基検出された。

G 8

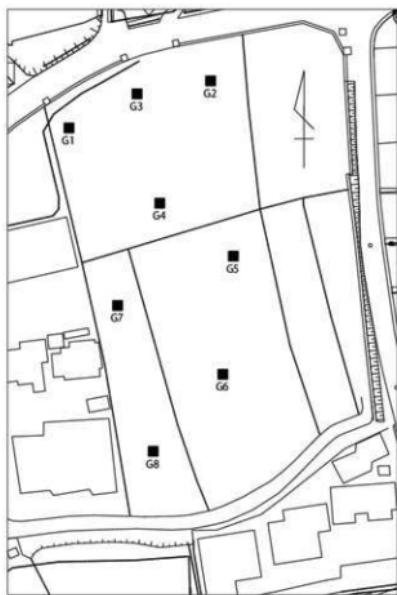
G 7 の南側に設定したグリッドである。3層から成っている。第1層は耕土、第2層は黒シルト質極細砂、第3層は地山である。第2層から土器片が出土した。地山直上からビットを2基検出した。

○まとめ

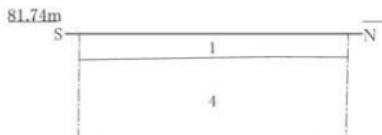
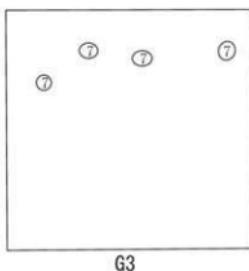
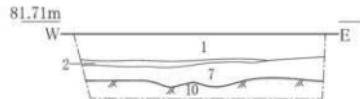
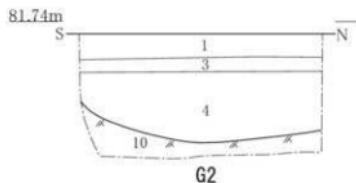
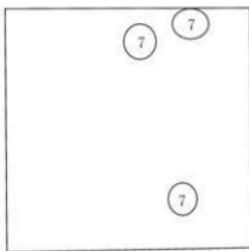
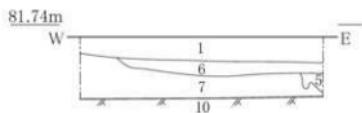
今回の調査地点の100 m程度西側で実施した第4、5次調査、第7、8次調査では、弥生時代の掘立柱建物や平安時代のビットが確認されており、今回の調査地点でも遺構の発見が期待されていた。調査の結果、弥生土器を含んだ包含層及びビット、土坑などの遺構が確認された。

G 2、G 4の調査箇所については後世の改変を受けていることが分かったが、遺構は調査区全体に広がっていることが明らかとなり、さらに東側へ遺構が広がっている可能性が高い。

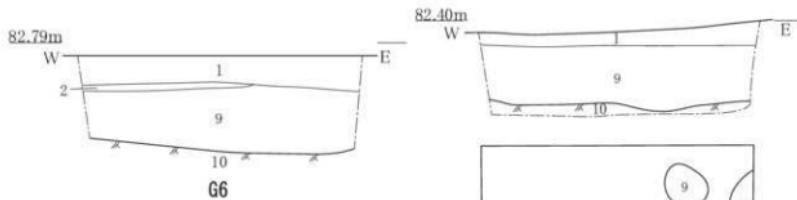
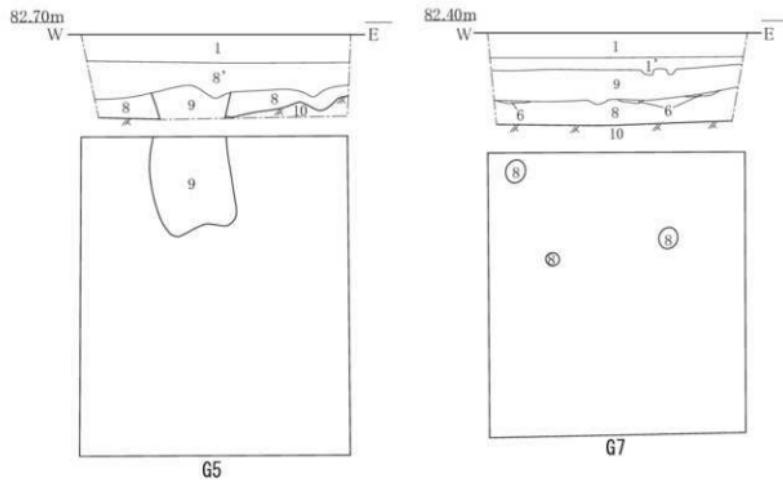
今回の調査の結果、開発範囲の大部分で遺構が確認された。道路部分は将来的に町道になることから本調査で対応する。住宅建築予定地については、個人住宅建築時に第93条の届出の提出を求めるとしている。なお、擁壁設置に関しても掘削を伴うが、掘削深度が遺構面に達しないため影響がないものと判断する。



グリッド配置図



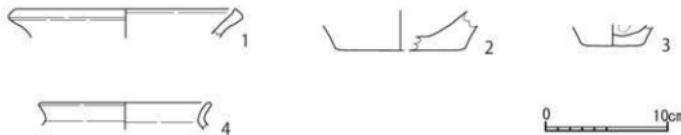
土層図



- 1. 耕土
- 1'. 旧耕土
- 2. 床土
- 3. 改良土
- 4. 造成土
- 5. にじみ、黄褐色 (10YR4/3) シルト質粗砂
- 6. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質粗砂 (耕土混ざる)
- 7. 黑褐色 (10YR2/3) シルト質中砂
- 8. 黑褐色 (10YR2/3) シルト質極細砂
- 8'. 黑褐色 (10YR2/3) シルト質極細砂 (明黄褐色土の粒含む)
- 9. 黑褐色 (10YR1.7/1) シルト質極細砂
- 10. 地山



土層図



遺物実測図



出土土器

番号	種別	器種	調査区	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	土器器	甕	G7	(18.0)	残2.4		ヨコナデ		
2	弥生土器	壺	G8		残3.2	(9.4)			
3	弥生土器	壺	G5		残1.8	(4.8)			
4	弥生土器	甕	G6	(13.8)	残22				

遺物観察表



調査前（南東から）



調査前（北西から）



重機掘削



作業のようす



G 1 (南から)



G 2 (東から)



G 3 (南から)



G 4 (東から)



G 5 (南から)



G 6 (南から)



G 7 (南から)



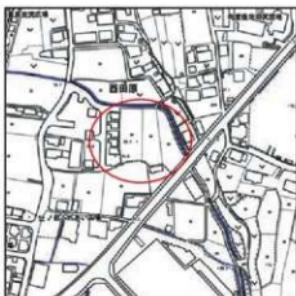
G 8 (南から)

19. 西田原字前田試掘調査

所在地 神崎郡福崎町西田原字前田 1697 他
事業名 露天駐車場・露天資材置場工事
調査担当 渡辺 畏
調査面積 20m²
調査期間 令和2年11月10日（火）

○調査に至る経過

令和2年11月4日（水）に、工事主体者から予備調査依頼書が提出された。西田原前田遺跡隣接地であることから、令和2年11月10日（火）に協力を得て試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。開発予定地にグリッドを5か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は氾濫原に位置付けられる。

周知の遺跡としては、南に西田原前田遺跡があり、奈良時代、中世の遺物包含層が確認されている。西には西田原辻ノ前遺跡が、北東に西田原上野田遺跡が存在している。西田原上野田遺跡は4回調査が実施されている。平成5年度の第1次調査では、ピット状遺構が確認され、中世の須恵器が出土している。また、北西に位置する平成28年度の第2次調査では、中世の遺物を含む包含層が確認されている。平成29年度に商業施設北側で実施された宅地造成に伴う第3次調査で遺構が確認されたため、平成30年4月に本調査（第4次調査）を実施したところ、弥生時代後期から近世にわたる遺構が確認された。

○調査の概要

G 1

調査対象地は3枚の水田である。その西側の水田中央南寄りに設定したグリッドである。

6層から成っており、第1層は耕土、第2層は床土、第3層は暗褐細砂、第4層は灰黄褐シルト質極細砂、第5層は黒褐シルト質極細砂、第6層は地山であるにぶい黄褐シルト質極細砂である。遺物は床土から磁器が出土している。近代かと思われる。

G 2

G 1と同じ水田の北側に設定したグリッドである。基本土層はG 1とほぼ同じであるが、第3層の下に黒褐砂礫層が堆積している。洪水堆積層である。地山は西から東に下がっているが遺構ではない。自然のものと思われる。遺構、遺物ともに確認されなかった。

G 3

G 1、G 2の東側である中央の水田中央付近に設定したグリッドである。

洪水堆積層が続き地山は確認されなかった。耕土の下の第2層は山土の混じる床土で、第3層、第4層はG 1と同じである。第4層の下の第5層がにぶい黄褐砂礫、第6層は灰黄褐砂礫である。遺構は確認されなかった。遺物は4層上面で須恵器、土師器が出土している。砂礫層による流入と思われる。

G 4

G 3の北側に設定したグリッドである。

洪水堆積物であるが上層は灰シルトが堆積している。下層は色調が異なるが砂礫層が続いており、

地山は確認していない。湧水が激しく下層確認は行っていない。遺構、遺物ともに確認されなかつた。

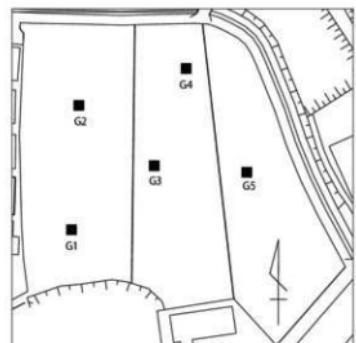
G 5

G 4 の東側水田中央に設定したグリッドである。

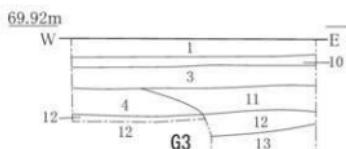
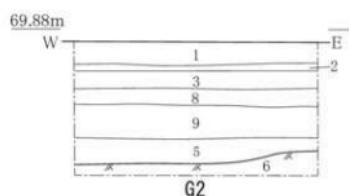
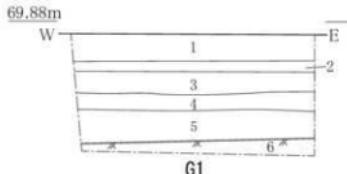
6 層から成っており、第 1 層は耕土、第 2 層は床土、第 3 層は暗褐細砂、第 4 層は黒シルト、第 5 層は黒褐シルト質極細砂、第 6 層は灰黄褐砂礫である。洪水堆積層で地山は確認していない。遺構、遺物ともに確認されなかつた。

○まとめ

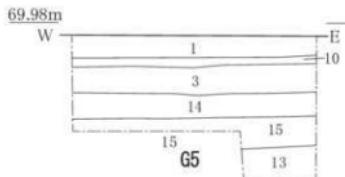
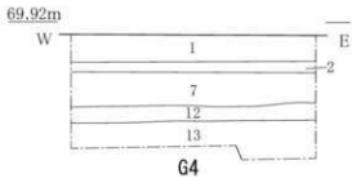
今回の調査で、遺物は少量出土したが二次堆積である。遺構は確認されていない。調査区東端は段丘面の端部で東側にある低位段丘面との段丘崖になっているが、その方向に洪水堆積物が流れているようである。



グリッド配置図



土層図



- 1 耕土
- 2 明黄褐色 (2.5Y6/6) シルト質極細砂～細砂
(床土 (上面鉄分層))
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 細砂 マンガン・小礫含む
- 4 灰褐色 (10YR4/2) シルト質極細砂
- 5 黑褐色 (10YR3/2) シルト質極細砂
- 6 にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト質極細砂 (地山)
- 7 黒 (10YR2/1) シルト
- 8 黑褐色 (10YR3/3 ~ 2/3) 砂礫
- 9 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質極細砂
- 10 にぶい褐色 (7.5YR5/4) 中～粗砂 (床土)
- 11 暗褐色 (10YR3/4) 中砂 小礫・マンガン含む
- 12 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂礫
- 13 灰褐色 (10YR5/2) 砂礫
- 14 黒 (10YR2/1) シルト
- 15 黑褐色 (10YR3/2) シルト質極細砂



土層図



調査前（西から）



調査前（北から）



重機掘削



作業のようす



G 1 (南から)



G 2 (南から)



G 3 (南から)



G 4 (南から)



G 5 (南から)



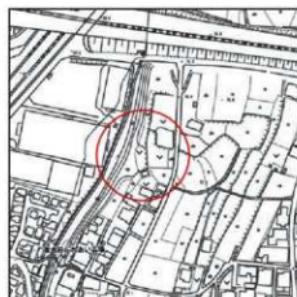
埋め戻し後

20. 南田原字北ノ垣内試掘調査

所在地 神崎郡福崎町南田原字北ノ垣内 1788-1、1795
事業名 露天駐車場・露天資材置場工事
調査担当 渡辺 昇
調査面積 8 m²
調査期間 令和2年11月11日（水）

○調査に至る経過

令和2年11月4日（水）に、工事主体者から予備調査依頼書が提出された。段丘面で遺跡の存在の可能性が考えられることから、令和2年11月11日（水）に協力を得て試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。開発予定地にグリッドを2か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は中位の段丘面に位置付けられる。

周知の遺跡としては、南に西光寺遺跡、西光寺中遺跡がある。ほかの周知の埋蔵文化財包蔵地は知られていないが、家形石棺が寶性院に残されている。段丘面で安定しており、幅広い時期の遺跡が存在する可能性がある。

○調査の概要

G 1

調査対象地は水田で2枚の水田に分かれている。その南側の水田中央に設定したグリッドである。3層から成っており、第1層は耕土、第2層は地山客土、第3層は耕土と地山土の混ざった層で、第4層は地山である。地山は明黄褐シルトで礫を含んでいる。段丘面を形成する層である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

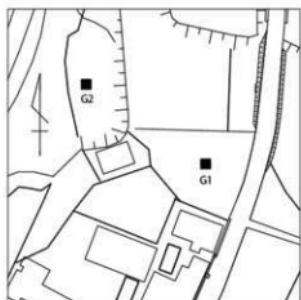
G 2

北側の水田に設定したグリッドである。

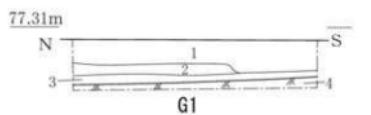
2層から成っており、第1層は耕土、第2層は地山である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

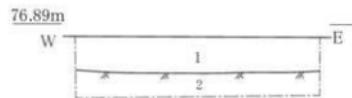
今回の調査で、遺構、遺物は確認されなかった。G 1は耕土直下に1層存在するが地山土の混じった土層である。G 2は耕土直下が地山であった。



グリッド配置図



1 耕土
2 地山客土
3 耕土と地山の混じった層
4 明黄褐 (10YR6/6) シルト 繊含む (地山)



1 耕土
2 明黄褐 (2.5Y7/6) シルト 下の方が濃くなる (地山)



土層図



調査前（北から）



重機掘削



G 1 (西から)



G 2 (南から)

21. 八千種字廣野試掘調査

所在地 神崎郡福崎町八千種字廣野 1141
事業名 駐車場工事
調査担当 渡辺 昇
調査面積 4 m²
調査期間 令和2年12月2日(水)

○調査に至る経過

令和2年11月19日(木)に、工事主体者から予備調査依頼書が提出された。嶺雲寺周辺であることと段丘面で遺跡の存在の可能性が考えられることから、令和2年12月2日(水)に協力を得て試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区は旧耕作地で、現状は柿などの生えた畠地である。現況で調査区を設定できなかつたことから、隣接する耕作地にグリッドを設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は高位の段丘面に位置付けられる。周知の遺跡としては、西側の谷底平野から氾濫原に八千種庄古屋敷遺跡、八千種庄北挾遺跡がある。北東方向には奥ノ向遺跡が存在した。

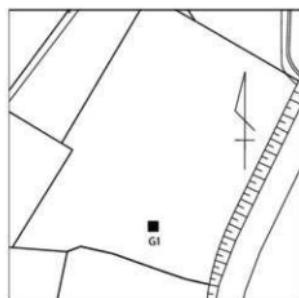
○調査の概要

G 1

調査を実施した地点は水田である。耕作土約20cmの下は段丘を形成する粘質土で、地山である。色調は明黄褐色でシルト質極細砂である。地山面を精査したが遺構は認められなかった。遺物も出土していない。

○まとめ

今回の調査で遺構、遺物は確認されなかった。工事施工に問題はないと思われる。



グリッド配置図



調査前（北から）



重機掘削



作業のようす



G 1（北から）



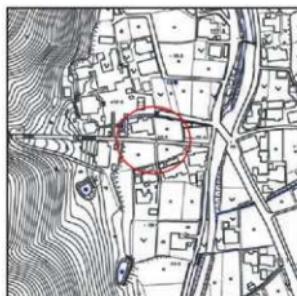
埋め戻し後

22. 田口字小屋垣内試掘調査

所在地 神崎郡福崎町田口字小屋垣内 250-1 他
事業名 駐車場造成工事
調査担当 渡辺 昇
調査面積 8 m²
調査期間 令和2年12月3日（木）

○調査に至る経過

令和2年11月19日（木）に、工事主体者から予備調査依頼書が提出された。金剛城寺周辺で前代の関連遺構などの可能性があることから、令和2年12月3日（水）に協力を得て試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、耕作地である。建設予定地にグリッドを設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

調査地は市川西岸で支流である七種川の右岸に位置し、地形区分上は扇状地に位置付けられる。周知の遺跡としては、対岸に田口ツタニ遺跡がある。金剛城寺と強く関連する中世後半の中世墓群である。金剛城寺は奈良時代創建の七種寺そして作門寺を継承した寺院で長く法灯が保たれている。また、周辺は播磨國風土記の故地「奈具佐山」である。新西国三十三所の一寺院で巡礼道が通っており、信仰の対象となっている。

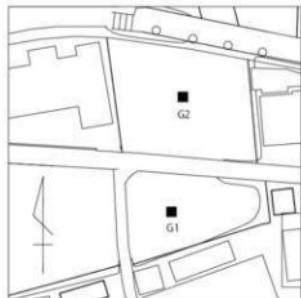
○調査の概要

調査対象地は3か所あったが、南西部は治山事業の際に深く掘られているようなので、調査対象にしなかった。南東にG1を、北東にG2を設定して調査を行った。

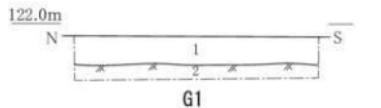
調査の結果、どちらのグリッドも耕作土の下が直に地山になっていた。G1は褐中砂で扇状地堆積物と思われ、多くの円礫を含んでいる。G2はにぶい黄褐中砂で同様に円礫が含まれる。改良剤が加えられたようで堅く締まっている。地表面を精査したが遺構は認められなかった。遺物も出土していない。

○まとめ

今回の調査で、遺構、遺物は確認されなかった。工事施工に問題はないと思われる。



グリッド配置図



1 耕土
2 褐 (10YR4/4) 中砂 (円礫多く含む) - 地山



1 耕土
2 にごい黄褐 (10YR5/4) 中砂 (円礫多く含む)
改良済加えられている 硬い (地山)



土層図



重機掘削



作業のようす



G 1 (西から)



G 2 (西から)

23. 北野散布地（第11次）

所在地 神崎郡福崎町西田原字向下廣岡 965-1
事業名 宅地造成工事
調査担当 渡辺 昇
調査面積 2 m²
調査期間 令和3年1月28日（木）

○調査に至る経過

宅地造成工事に先立って遺跡照会があり、周知の埋蔵文化財保有地である北野散布地に該当することから、工事主体者から発掘届出が令和2年12月28日に提出された。それを受けて令和3年1月28日（木）に確認調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、元は水田であった。開発地に1.0×2.0 mのグリッドを設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、市川ならびに支流である雲津川によって形成された段丘面にあたる。

北野散布地は平成8年度に分布調査が実施され、広い範囲で遺物が採集され、濃密な遺物分布が確認された。当該地もその時に遺物が採集されている。第1次調査では遺物は出土したが明確な遺構は確認されなかった。近接する第5次調査では弥生時代末の堅穴住居、掘立柱建物や中世の土坑などが検出されている。北西に位置する上大明寺遺跡では弥生時代の堅穴住居や墓が調査されている。

○調査の概要

G 1

元の地目は水田であるが、周辺部を含めて宅地開発が計画されており、分譲地となっていた。

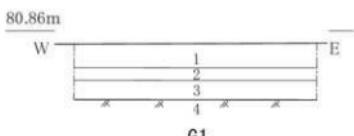
層序は第1層が表土（耕土）、第2層が暗褐色シルト質細砂、第3層が黒褐色シルト質極細砂、第4層が地山である明黄褐色シルト質極細砂である。地表面が遺構面となるはずであるが、遺構は確認されなかった。また、遺物も出土していない。

○まとめ

今回の調査では、遺構、遺物は確認されなかった。盛土施工の工事であることからも、工事施工に問題はないと思われる。



グリッド配置図



G1

- 1 表土 (耕土)
2 暗褐色 (10YR3/3) シルト質細砂
3 黑褐色 (10YR3/2) シルト質極細砂
4 明黄褐色 (10YR6/5) シルト質極細砂 (地山)



土層図



重機掘削



G 1 (南から)

24. 南田原字金垣内試掘調査

所在地 神崎郡福崎町南田原字金垣内 1622 他
事業名 太陽光発電施設設置工事
調査担当 渡辺 畏
調査面積 20m²
調査期間 令和3年3月4日（木）

○調査に至る経過

工事計画者から埋蔵文化財の事前調整があり、対象地は段丘面が広がり遺跡の存在の可能性があることと鐘製造の生産遺跡の可能性があることから、試掘調査の必要性があることを伝えた。令和2年12月28日（月）に、工事主体者から予備調査依頼書が提出された。それを受けて令和3年3月4日（木）に協力を得て試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。開発予定地にグリッドを5か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は段丘面に位置付けられる。市川東岸で段丘面の発達した地域である。調査区南に安富断層が東西に走り、ここに中国自動車道が東西に通っている。調査対象地から東は高位段丘面になり、西側は急激に下がり麓削面になり、市川に向かって徐々に低くなっている。また、小字名が金垣内で北側に位置する鍾鉄場と合わせて、鍾鉄造施設の可能性を考えられている地域である。神積寺や西光寺などの鐘を作ったと伝えられている。

周知の遺跡としては、北西に西田原前田遺跡があり、奈良時代から中世の遺物包含層が確認されている。さらに北側には西田原上野田遺跡が存在している。西田原上野田遺跡は6回調査が実施されている。平成5年度の第1次調査では、ピット状遺構が確認され、中世の須恵器が出土している。平成28年度の第2次調査では、中世の遺物を含む包含層が確認されている。平成29年度に商業施設北側で実施された宅地造成に伴う第3次調査で遺構が確認されたため、平成30年4月に本調査（第4次調査）を実施したところ、弥生時代後期から近世にわたる遺構が確認された。北東方向の桜上池東では旧石器時代のサヌカイト製の縦長剣片が採集されている。

○調査の概要

G 1

調査対象地南側中央に設定したグリッドである。5層から成っており、第1層は耕土、第2層は褐極細砂、第3層は灰褐極細砂、第4層は黒褐極細砂と地山の混ざった層、第5層は地山である明黄褐シルトである。遺構、遺物は確認されなかった。

G 2

G 1 の北側の一段低いところに設定したグリッドである。基本土層はG 1 とほぼ同じであるが、第4層が黒シルト質極細砂で混ざりのない層になっている。遺構、遺物ともに確認されなかった。

G 3

G 2 北側の一段低い南北に長い水田に設定したグリッドである。東側の高位段丘面にできた開析谷かと思われる部分である。2層の色調は褐灰と変化しているが、耕土から第4層はG 1、G 2と同じである。第5層が黒褐細砂、第6層は灰黄褐砂礫で、第7層はにぶい黄褐シルト質細砂である。

第8層が地山である明黄褐シルトである。湧水が認められたので、全体は掘り下げず第6層以下は一部を掘り下げて確認した。遺構は確認されなかつたが第5層から弥生土器が出土している。一部北側に拡張したところ、礫層が上がっており、その下から人頭大の円礫層が確認された。北側に地形が上がっており砂礫層も上がっていることから、北東方向からの流入と思われる。

G 4

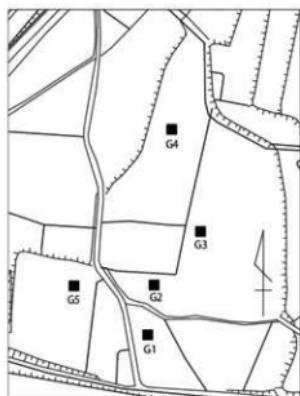
G 3 の北西側の水田に設定したグリッドである。対象地北側の水田で最も低い部分である。3層から成り、厚めの耕土の下は第2層灰黄褐シルト質極細砂で、第3層は地山である明黄褐シルトである。遺構、遺物ともに確認されなかつた。段丘を削平して開削した水田と思われる。北から南に低くなっている。

G 5

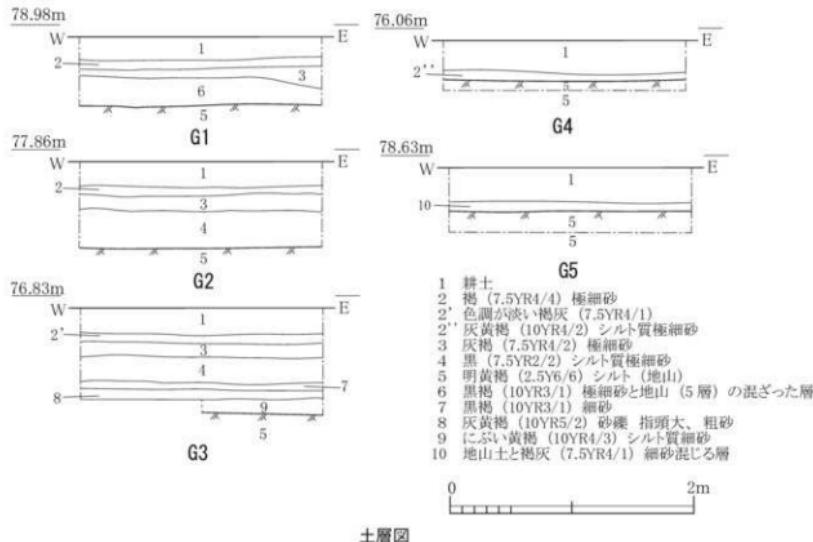
G 1 の西側に設定したグリッドである。厚さ 30cm の耕土の下に薄い褐灰細砂があり、その下は地山である明黄褐シルトである。遺構、遺物ともに確認されなかつた。

○まとめ

今回の調査で、遺物は少量出土したが二次堆積と思われる。遺構は確認されていない。北東から南西～西へ流れた堆積層と思われる。



グリッド配置図





G 1 (南から)



G 2 (南から)



G 3 (南から)



重機掘削



G 4 (南から)



G 5 (南から)



埋め戻し状況



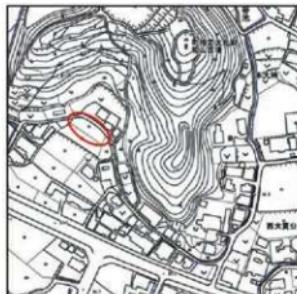
埋め戻し後

25. 大貫字室ノ尾試掘調査

所在地 神崎郡福崎町大貫字室ノ尾 2276番
事業名 木造住宅建築工事
調査担当 渡辺 昇
調査面積 4 m²
調査期間 令和3年3月16日（火）

○調査に至る経過

木造住宅建築工事に伴う事前調整があり、周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、北側尾根頂上に相山古墳があり、尾根筋から山腹にかけて中世末以降の墓が存在することから、令和2年4月21日（火）に予備調査依頼が提出され、協力を得て令和3年3月16日（火）に試掘調査を行った。



調査地点の位置

○調査の方法

調査地点は、畠地であった。グリッドを1か所設定した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。調査終了後、埋戻しも行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川左岸の福崎町北東部に位置しており、地形区分上は扇状地に位置付けられる。

調査地点の北側尾根頂上には古墳時代後期初頭の相山古墳が存在する。径24mの円墳で埴輪列を巡らせ形象埴輪も保有している古墳である。尾根頂部に立地することから規模以上の大きな古墳に見え、南側平地からも見ることができる。尾根上から山麓にかけて中世以降の墓地が存在している。山腹から五輪塔などが出土している。大善寺裏山では古墳時代の箱式石棺が確認されており、平地では縄文時代から中世にわたる西大貫遺跡が知られている。

○調査の概要

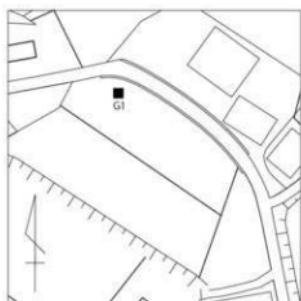
G 1

7層から成っている。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は盛土、第4層は灰黄褐シルト質極細砂で、第5層は黒シルト質極細砂、第6層は灰黄褐シルト質細砂、第7層は褐灰シルト質極細砂、第8層は地山で明黄褐シルト質細砂である。第6層、第7層は洪水堆積物である。

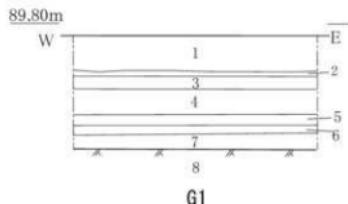
遺構は確認されなかった。遺物は第1層と第3層から埴輪、土師器、陶磁器が出土している。2層とも耕作土、造成土で移動した土層である。谷地形で洪水堆積物が溜まっているように安定したところではなく、遺構面も確認されていない。地山面は安定しているように思われるが、小面積の調査なので明確にはできない。埴輪は尾根上に存在する相山古墳から流れ込んだものであろうか。小片で断定はできないが流入した可能性は高い。

○まとめ

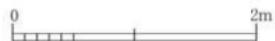
今回の調査では、耕土と盛土から遺物が出土したが二次堆積である。遺構は確認されなかった。調査地点は谷地形で地山上は疊層が確認されており、遺構面は確認されなかった。



グリッド配置図



- 1 耕土
- 2 にぶい黄橙（10YR6/4）シルト 床土
- 3 暗褐色（10YR3/3）シルト質極細砂（4・5層混じる）（盛土）
- 4 灰黃褐色（10YR4/2）シルト質極細砂
- 5 黒（10YR2/1）シルト質極細砂
- 6 灰黃褐色（10YR5/2）シルト質細砂（角礫多く含む）洪水堆積層
- 7 褐灰色（10YR5/1）シルト質極細砂（礫少量含む）洪水堆積層
- 8 明黃褐色（10YR6/6）シルト質細砂（地山）



土層図



調査前（西から）



重機掘削



作業のようす



G 1 （南から）

26. 高岡・福田地区ほ場整備事業に伴う試掘確認調査

所在地 神崎郡福崎町高岡
事業名 高岡・福田地区ほ場整備事業
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 36m²
調査期間 令和2年9月15日(火)、
10月12日(月)、14日(水)

○調査に至る経過

福崎町では高岡・福田地区においては場整備事業を計画している。事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である観音堂遺跡・宮ノ前遺跡・前田遺跡・林谷遺跡・桜遺跡・狐塚遺跡が存在する。事業用地内の分布調査を受けて試掘調査を実施することとなった。平成28、29年度にかけて事業予定地内の試掘確認調査を実施し、桜竹之後遺跡、桜東畠遺跡、神谷ヤブノハナ遺跡、長野諏訪神社周辺遺跡、長野多イ谷遺跡が新たに埋蔵文化財包蔵地として発見された。その後、南工区については事業地の追加や耕作物の関係で調査不能であった箇所について、令和元年度に試掘確認調査を実施した。北工区については、桜東畠遺跡の本調査実施後、さらに遺構が西接する土地に広がることが明らかとなつたため、遺構の広がりを確認するための調査を令和2年度に追加で行うこととなった。



調査地点の位置 (1/10,000)

調査日	調査地区		調査箇所(グリッドNo)
9月15日(火)	北工区	桜	G 1、G 2、G 3
10月12日(月)	南工区	神谷	230、231、232
10月14日(水)	南工区	福田、長野	233、234、235

○調査の方法

調査対象地区の現状の大半は耕作地である。グリッドを9か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。調査Noは南工区の神谷、福田(宮ノ前遺跡)、長野地区については通しNoとしており、No 230からグリッド番号を付けている。北工区の桜地区については追加したグリッドNoをG 1～G 3とした。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川西岸に位置し、市川と市川の支流である七種川によって形成された段丘面ならびに氾濫原にあたる。事業地の中に旧河道が存在するなど複雑な地形を呈している。事業地内を流れる大内川も一時期の旧河道の1つであったであろうと思われ、現在は河道となっている。北西から砂州状に延びている微高地に観音堂遺跡が立地していたものと思われる。その南側の低位氾濫原と考えられる部分は、自然流路の一部と考えられる。さらに南側に西側丘陵から延びる微高地があり、そこに宮ノ前遺跡が広がっている。尾根上から段丘面の一部は水田開削による削平を受けている。両遺跡とともに遺跡内に旧河道が認められる。

前田遺跡と平成 28、29 年度の試掘調査で発見された神谷ヤブノハナ遺跡、長野多イ谷遺跡周辺は、中世から近世を中心とした遺構が確認された前田遺跡周辺をピークとして北、東、南に向かって地形が下がっていく。長野多イ谷遺跡は前田遺跡よりやや 1m 程度標高は下がるが安定した面と遺物が確認されていることから、前田遺跡、長野多イ谷遺跡を中心とした面上に中世から近世の遺跡が存在すると考えられる。

今回のは場整備事業に伴う埋蔵文化財調査の前は、宮ノ前遺跡と觀音堂遺跡で各 1 回の確認調査と桜遺跡で立会調査が 1 回行われただけで、大きな調査は実施されたことはない。3 回の確認調査・立会調査では遺構は確認されていない。全町を対象とした分布調査しか行われておらず、遺跡の内容はほとんど把握されていない。福崎西中学校周辺などで土器の出土が知られており、分布調査でも多くの土器が採集されている。北側の下々通遺跡では中世の包含層が確認されている。福田から山崎の丘陵には後期古墳が構築され、神谷の医王寺境内には後期末の方墳である神谷古墳が存在する。また、七種川を隔てた東側の福田無量寺跡は福崎町内唯一の古代寺院である。前田遺跡北西の谷部に立地する矢口遺跡では律令期の役人が使用したと言われる鈔帶（ベルト）の部品（巡方）が出土している。

平成 28 年度の試掘確認調査で、觀音堂遺跡は奈良時代から中世にかけての集落跡であることが確認された。宮ノ前遺跡は弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴住居跡が検出され、断続して古代から中世にかけての集落跡であることが確認された。前田遺跡は五輪塔が散乱しており、中世後半の墓地であろうと思われたが、平成 29 年度に実施した本調査の結果、大畦畔や中世の掘立柱建物や土坑などが検出された。

○調査の概要

G 1

桜東畑遺跡西側の掘立柱建物などの遺構の広がりを確認するため、筆の東端中央に設定したグリッドである。

4 層から成る。第 1 層は耕土、第 2 層は床土、第 3 層は褐シルト質粗砂、第 4 層は地山である。

床土直下でピットが確認されたが、遺物は確認されなかった。

G 2

遺構の広がりを確認するため、G 1 の西側に設定したグリッドである。

2 層から成る。第 1 層は耕土、第 2 層は河川堆積層である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

G 3

遺跡の南側への広がりを確認するために設定したグリッドである。

2 層から成る。第 1 層は耕土、第 2 層は河川堆積層である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

No 230

宮ノ前遺跡北側に位置している。觀音堂遺跡と宮ノ前遺跡に挟まれており、旧河道が走っていたと思われる箇所で No 230 の北の筆からは地形が落ちていることが看取できる。

層序は第 1 層が耕土、第 2 層が床土、第 3 層が暗褐シルト質粗砂、第 4 層が褐シルト質中砂、第 5 層がにぶい黄褐シルト質中砂、第 6 層が明黄褐シルト質粗砂である。第 4 層以下は角礫を含んだ安定した面であり、遺構が存在する可能性がある。遺物は皆無である。

No 231

No 230 の東側の畑に設定したグリッドで、層序は第 1 層が耕土、第 2 層が床土、第 3 層がにぶい黄褐シルト質粗砂、第 4 層が暗褐シルト質粗砂、第 5 層がにぶい黄シルト質粗砂、第 6 層が褐シルト質粗砂である。

第 5 層にピット状遺構と安定した面が確認されたが、遺物は皆無である。

No. 232

No. 231 の東の筆に設定したグリッドで、層序は第1層が耕土、第2層が床土、第3層がにぶい黄褐色シルト質粗砂、第4層が暗褐シルト質粗砂、第5層が褐シルト質粗砂である。

第5層にピット状遺構と溝状遺構が確認されたが、遺物は皆無である。

No. 233

宮ノ前遺跡内に設定したグリッドである。第1層が耕土、第2層が床土、第3層がオリーブ褐色シルト質粗砂、第4層が褐シルト質粗砂、第5層が暗褐シルト質中砂、第6層がにぶい黄褐色シルト質粗砂である。

第4層は断面で確認すると落ち込みと考えられ、中世頃の須恵器片及び土師器片が出土している。南北の筆でも同様に遺構、遺物が確認されている。

No. 234

長野多イ谷遺跡に近接して東側に設定したグリッドである。第1層が耕土、第2層が床土、第3層が黄灰シルト質細砂、第4層がオリーブ褐色シルト質粗砂である。第3層上に溝状遺構が確認されたが、第3層からは中世頃の須恵器が出土しているため、遺構は新しいものと思われるが、遺物が出土していないため時期は不明である。

No. 235

No. 234 の南側に設定したグリッドで、長野多イ谷遺跡の範囲を確認するために設定した。第1層が耕土、第2層が床土、第3層が暗灰黄シルト質細砂、第4層が黄灰シルト質細砂である。第3層に溝状遺構が確認されたが、No. 234 と同様に第3層から中世頃の須恵器が出土しているため新しいものと思われるが、遺物が出土していないため時期は不明である。

○まとめ

北工区の試掘調査では、東側に隣接する桜東畠遺跡の広がりを確認できることが期待された。調査の結果、同遺跡で確認された地山面が今回の調査地点付近で上がっていることが分かり、また、G 1 にてピット状遺構がグリッドの壁面で確認された。G 1 から西側では安定した地山面を確認することができず、G 1 と G 2 の間が遺跡の西端であると判断できる。

同様に、平成 28 年に設けたグリッドと G 3 からも安定した地山面が確認されなかつことから、調査地点筆の東端のみ遺跡として判断することができる。

このことから、事業実施にあたっては姫路土地改良センターと協議の上、遺構面に影響が及ぶ場合は本調査で対応することとする。

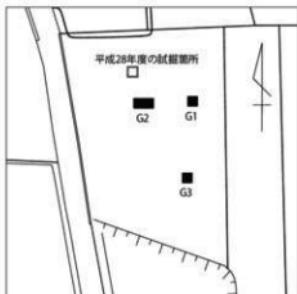
南工区については、これまでの試掘確認調査時以降に事業地として追加された箇所と耕作の都合で調査ができなかつた箇所を対象に調査を実施した。

No. 230 ~ 232 からは、安定した面が確認され、No. 231、232 からはピット状遺構や溝状遺構が確認された。その東側に位置する No. 136 で弥生時代後期の堅穴住居が検出されており、遺構が広がつている可能性がある。3つのグリッドの褐色土、にぶい黄色土をそれぞれ遺構面と判断する。

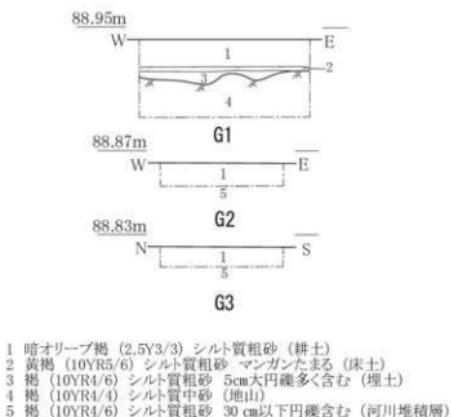
No. 233 は南北で遺構が確認されることから遺構の発見が期待されたグリッドである。落ち込みからほとんどローリングを受けていない須恵器片と土師器片が確認され、南北の調査結果を踏まえると遺構面と判断できる。

No. 234 からは溝状遺構と安定した面の直上に人頭大の扁平な礫が、No. 235 からは須恵器片を多く含んだ包含層が確認された。出土した須恵器片はほとんどローリングを受けていないが顕著な遺構は確認されなかつたため、流れ込みによるものとも考えられる。包含層以下の堆積層はグライ化しており、地形上谷部であることから旧河道上に中世以降の遺構面が存在していた可能性が考えられる。

桜地区



グリッド配置図



- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト質粗砂 (耕土)
- 2 黄褐色 (10YR5/6) シルト質粗砂 マンガンたまる (床土)
- 3 褐色 (10YR4/6) シルト質粗砂 5cm大円礫多く含む (埋土)
- 4 褐色 (10YR4/4) シルト質中砂 (地山)
- 5 褐色 (10YR4/6) シルト質粗砂 30 cm以下円礫含む (河川堆積層)

0 2m

土層図



G 1 (南から)



G 2 (南から)

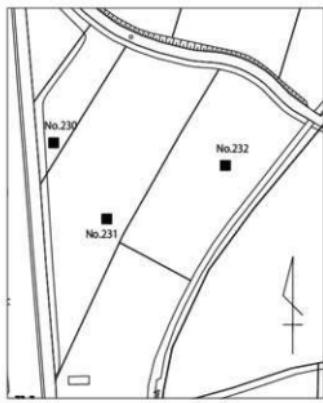


G 3 (西から)

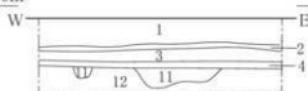


埋め戻し状況

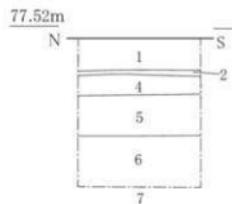
神谷地区



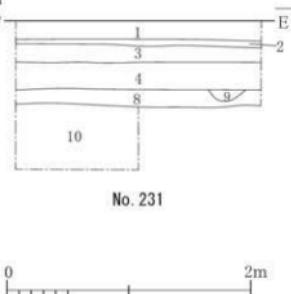
77.30m



77.52m



77.30m



土層図

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト質粗砂 (耕土)
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) シルト質粗砂 (床土)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト質粗砂に
黄褐色 (2.5Y5/3) 色土混ざる
- 4 明褐色 (10YR3/4) シルト質粗砂
- 5 棕褐色 (10YR4/6) シルト質中砂 (10 cm大角礫多く含む)
- 6 にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト質中砂
(5 cm大角礫含む)
- 7 明黄色 (10YR6/6) シルト質粗砂 (粗砂多く含む)
- 8 にぶい黄 (2.5Y6/4) シルト質粗砂
- 9 にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト質粗砂 (5 cm大角礫含む)
- 10 棕褐色 (10YR4/6) シルト質粗砂 (3 cm大角礫含む)
- 11 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト質粗砂
- 12 褐色 (10YR4/4) シルト質粗砂



No. 230 (西から)

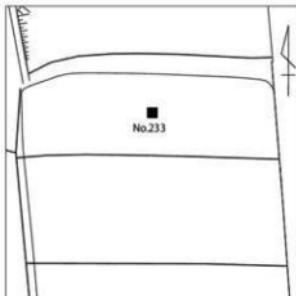


No. 231 (南から)

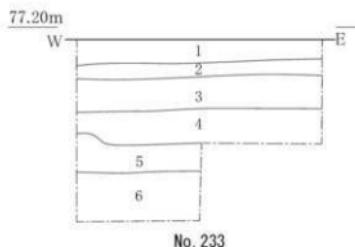


No. 232 (南から)

宮ノ前遺跡



グリッド配置図



No. 233

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト質粗砂 (耕土)
- 2 黄褐色 (10YR5/6) シルト質粗砂 マンガンたまる (床土)
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト質粗砂
- 4 褐色 (10YR4/4) シルト質粗砂 (包含層)
- 5 暗褐色 (10YR5/4) シルト質中砂
- 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質粗砂 5cm以下角礫含む



土層図



調査前（南から）



重機掘削

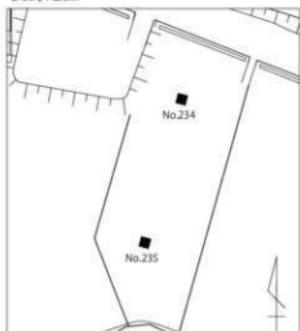


No. 233（南から）



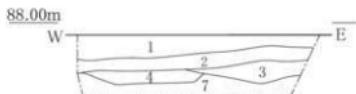
埋め戻し後

長野地区

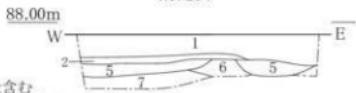


グリッド配置図

- 1 耕土
 2 床土
 3 黄褐 (2.5Y5/3) シルト質細砂
 4 暗灰黄 (2.5Y5/2) 色土なし
 5 暗灰黄 (2.5Y5/2) シルト質細砂 オリーブ褐 (2.5Y4/6) 色土含む
 6 暗灰黄 (2.5Y4/2) シルト質細砂 炭、オリーブ褐 (2.5Y4/6) 色土含む
 7 黄灰 (2.5Y4/1) シルト質細砂 黄褐 (2.5Y5/6) 色土含む
 8 オリーブ褐 (2.5Y4/4) シルト質粗砂 黄褐 (2.5Y5/6) 色土含む



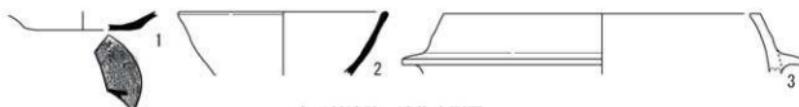
No. 234



No. 235



土層図



宮ノ前遺跡 遺物実測図



長野地区 遺物実測図



番号	種別	器種	調査区	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	須恵器	楕	No.233		残1.5	(9.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	
2	須恵器	楕	No.233	(17.0)	残5.2		ロクロナデ	ロクロナデ	底部に墨書
3	土師器	羽釜	No.233	(26.0)	残4.9				

宮ノ前遺跡 遺物観察表

番号	種別	器種	調査区	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	須恵器	楕	No.234	(17.8)	残1.75		ロクロナデ	ロクロナデ	
2	須恵器	鉢	No.235		残2.9	(12.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
3	須恵器	楕	No.234		残1.8	(6.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
4	土師器	皿	No.234	(7.0)	残1.35			ユビナデ	

長野地区 遺物観察表



調査前（北から）



重機掘削



No. 234（南から）



No. 235（南から）



埋め戻し状況



埋め戻し後

27. 山崎地区ほ場整備事業に伴う試掘調査

所在 地 神崎郡福崎町山崎
事 業 名 山崎地区ほ場整備事業
調査担当 渡辺 昇
調査面積 508m²
調査期間 令和2年11月16日（月）
～令和3年1月9日（土）
(実働27日間)

○調査に至る経過

福崎町では山崎地区においてほ場整備事業を計画している。事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である町指定史跡の大塚古墳が存在する。それ以外にも遺跡の存在する可能性があることから、事業用地内の分布調査を行った。その結果を基に試掘調査を実施することとなった。全域の試掘調査を単年度に実施できなかったので、今年度は事業予定地南半の試掘調査を実施することとした。令和2年11月16日（月）から令和3年1月9日（土）までの実働27日間調査を実施した。耕作物があるところなどは調査を行っていない。

○調査の方法

調査対象地区の現状の大半は耕作地である。ほ場整備事業用地の分布調査や現地での地形を考慮して試掘調査を実施した。1～147のうち計127か所のグリッドの調査を実施した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

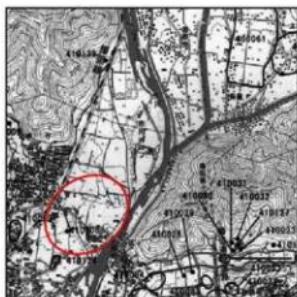
当該地は市川西岸に位置し、谷底平野ならびに氾濫原に分類されているが、地形的に起伏が認められ、大塚古墳が立地している部分は一段高くなっている。事業地の中に旧河道が存在するなど複雑な地形を呈している。北西の神前山から南東方向に地形は広がっており、旧河道に挟まれた微高地が複数認められる。その最も高い部分に大塚古墳が築かれている。事業予定地西側には県道甘地福崎線が通り、さらに西側に福田川が流れている。その西側が段丘面で高くなってしまい、山崎の集落が位置している。北側と西側に向かって段丘面が広がっている。調査地南西部も低位段丘面が広がっており、遺跡の存在が確認されている。

用地内の周知の埋蔵文化財包蔵地は大塚古墳だけである。対象地外南側に福田東田黒遺跡が、西側に清水遺跡が存在する。ともに土器が採集されているが、遺跡の実態はつかめていない。さらに南西の福崎駅周辺に位置する中溝遺跡は弥生時代から中世にわたる複合遺跡で、弥生時代前期の溝や後期の竪穴住居が検出され、山陰地方からの搬入土器が出土している。山崎の集落北側山塊には馬ウ子古墳があり興味ある副葬品を保有している。北西方向にある朝谷古墳群は2基から成り、1号墳は大形の石室をもつ円墳である。その周囲の朝谷遺跡からは弥生時代後期の土器（壺）棺が出土している。北側の市川町との町境近くの山麓に広がる千束遺跡では備前焼の小壺が出土している。

○調査の概要

G 1～G 5

事業地南西部で北西部に県道甘地福崎線が通っている。南側及び西側に旧河道が存在したと思われる地域である。県道とJR播但線を越えた西側の位置に清水遺跡が存在する。G 1は6層から成り、耕土、褐シルト質極細砂、褐灰シルト（繆縫含む）、黒シルト質極細砂、黒褐シルト質極細砂、黄



調査地点の位置 (1/35,000)

褐シルト（地山）となっている。地山は東側に向かって高くなっている。遺構・遺物は確認されていない。G 2 は G 1 の東側の田で比高差はないが耕土直下で地山が検出され、遺構面が 0.8m 高いことが確認された。8 基のピットが確認され、1 基には円礫が詰まっていた。G 1 の第 5 層黒褐シルト質極細砂を埋土とするものである。G 3 は 0.3m で地山になり、地山面で溝・土坑・ピットを検出している。地山上に灰黄褐細砂が堆積している。床土下では飼溝も確認している。溝は埋土が褐灰シルトで新しい遺構と思われるが、他は黒シルト質極細砂を埋土とし古い時期の遺構と思われる。土坑は 1 m 近い大形である。G 4 は G 1 と色調は異なるが基本的に同じ堆積である。地山面と黒褐シルト質極細砂面の 2 面で遺構を検出している。上面は土坑、下面是大形の落ち込みと土坑を確認している。G 5 もほぼ同様の層序であるが薄くなっている。落ち込みと小ピットを確認している。小ピットは樹根の可能性が高く、落ち込みも自然堆積と思われる。

G 6 ~ G 13

G 4 の東側である。畑地で耕作していたので、G 7 ~ G 9 · G 10 は調査していない。G 6 は耕土、床土下が地山で遺構・遺物は確認されなかった。G 8 も G 6 同様浅かったが地山面で遺構を確認している。ピットと落ち込み、溝があり、2 種の埋土がある。溝とピットの一部は新しい可能性がある。G 11 は床土の下に暗褐シルト質極細砂（上層は疊合む）があり、その下が地山である。ピットと樹根を検出したが、ピットも埋土に耕土が混ざり新しいものであろう。G 12 はグリッド北半のみ遺構面が残り、溝・落ち込みが確認された。G 12 と G 13 の現在水田であるところには以前工場があったようで、その基礎によって遺構面は残存していない。G 12 のグリッド北半から北側部分のみ建物がなかったようで遺構面が残存しており、遺跡の存在が確認された。

G 14 ~ G 39

対象地南端部である。大塚古墳のある微高地の間は低くなっている、旧河道が存在したと思われる。グリッドによって色調など変化はあるが、基本的には G 1 と同じで 2 · 3 層間に灰黄褐～にぶい黄シルト質極細砂が増えている。G 15 は 5 層上面と地山面の 2 面が遺構面で柱痕跡が確認できるピットや土坑を検出している。G 16 も 2 面で遺構を確認しており、溝・ピット・土坑がある。古墳時代初頭の土器が溝から出土している。G 19 は地山が高くなっている、落ち込みがあり、足跡や地震痕跡が確認されている。

G 20 · G 21 · G 23 も 2 面で遺構が確認されている。ピット・土坑を検出しており、土師器が出土している。G 24 は第 2 層の下が地山になっており、溝が確認されている。G 25 · G 29 · G 30 は耕土直下もしくは 2 層下で遺構が確認されている。大きめの土坑やピット・溝であるが、耕土直下であることから夾雜物が混じっており時期を決しがたい。南東隅となる G 26 ~ G 28 は大きく下がっており、旧河道かと思われ、洪水堆積物が確認され遺構は確認できなかった。G 32 · G 33 は浅く地山面が高いことから、遺構面が削平された可能性もある。地山面は凹凸が激しく不明瞭なピット・落ち込みを検出している。G 35 は安定した遺構面を有しピットが認められた。G 35 東側は崖になっており、東側は旧河道である。G 36 · G 37 では遺構は確認されず、浅いものの旧河道かと思われる。青磁が出土しており、中世の河道であろう。G 38 · G 39 では 2 面で遺構を検出した。上面は黒褐シルト質極細砂に黒極細砂を埋土とする。面検出が困難な層である。地山面の遺構は明瞭でともに溝を確認している。

G 40 ~ G 50

大塚古墳周辺で、周辺より一段高い部分である。特に東側と南側は明らかな崖を呈している。G 45 ~ G 50 は耕土、灰黄褐極細砂、黒極細砂、地山（にぶい黄褐シルト質極細砂）となり、地山面で遺構を確認している。安定した遺構面でピット・土坑・溝・落ち込みを確認している。弥生土器かと思われる磨滅した破片もあるが、古墳時代前半の遺構と思われる。

G 51 ~ G 85

G 51 は耕土、灰黄褐極細砂、明黄褐砂礫層で、3 層上面は中世以降の安定した遺構面の可能性があるが、遺構は確認されなかった。G 52 は G 51 の 2 · 3 層間の 2 層の砂礫層を有する。耕土下

で石敷の暗渠を検出している。G 53 も第3層の下で暗渠を検出している。下層は砂礫層であるが上部は排水が悪かったようである。G 85 まですべて地山は検出していない。中世の遺構は存在する可能性はあるが安定した遺構面は認められない。G 64 のように大きく落ち込む堆積状況が分かるものなど、砂礫層の堆積が主になっている。その中で G 60・G 64 は褐灰中砂のやや安定した面があり、溝・ビットを確認している。G 64 では完形に近い土師器甕も出土しており、小面積の遺跡が広がっていたかもしれない。G 68 は洪水堆積物であったが、その東の G 84・G 85 は自然の可能性も残るが溝・ビットを検出しており、2次確認調査が必要と思われる。

G 86～G 123

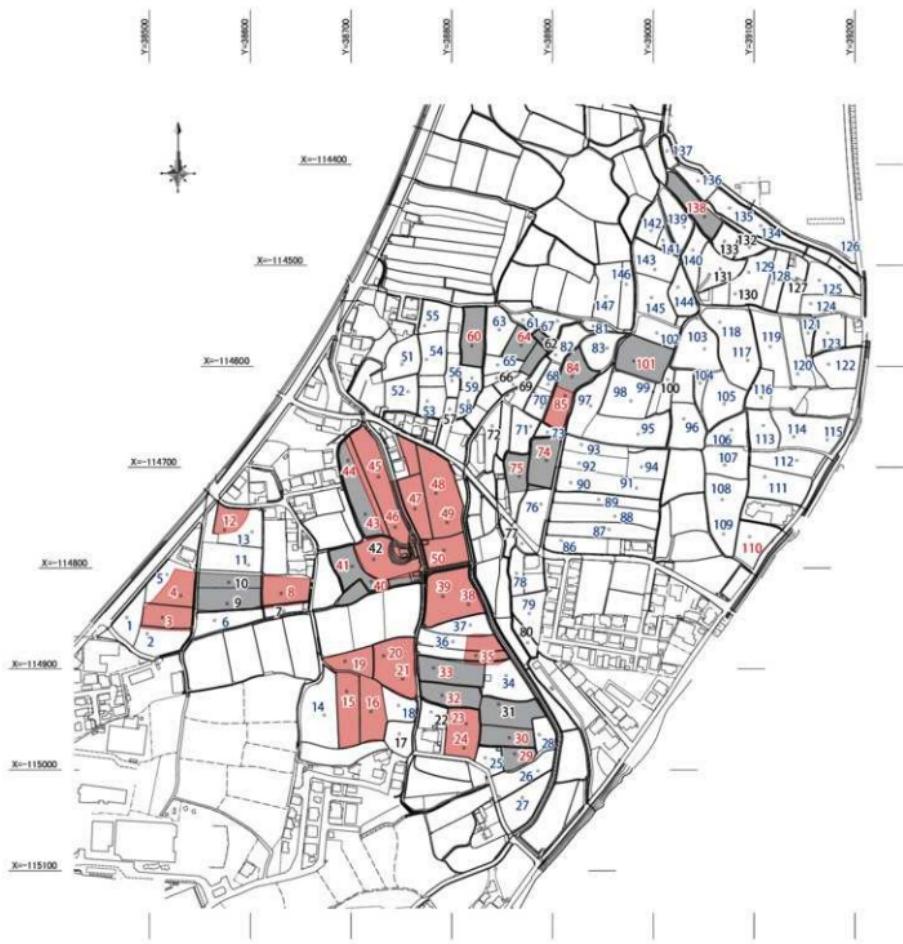
今年度調査対象の東側の広い範囲であるが、砂礫層が多く地山は確認していない。自然の可能性の高い溝や地震痕跡を確認している。G 101・G 103 で溝を検出している。G 110 ではかろうじて地山かと思われる黄褐極細砂層上面でビットを確認している。東へ高くなつており自然堤防の可能性があり、そこに構築された遺構かもしれない。G 120 は断面観察では溝に見えるが洪水の自然堆積と思われる。G 119 と G 120 は旧河道かと思われる。

G 124～G 147

今年度調査対象地北東部分である。北側に太陽光発電施設がある。G 124 は第1層が耕土、第2層が灰黃褐シルト質極細砂、第3層が黃褐シルト質極細砂、第4層が暗褐シルト質極細砂（マンガニ含む）、第5層が褐灰砂礫、第6層が黃褐中砂（礫含む）である。地山は確認しておらず、洪水堆積層で遺構・遺物は確認していない。北側の水田は一段低くなつており、G 126・G 134～G 137 は旧河道と思われる。その両側は高くなつており、遺跡の存在が予想される。南側の墓地周辺と北側の太陽光発電施設用地で、以前古墳があったとも伝えられている。墓地北西の G 138 第3層下で溝が確認されている。幅 0.6m、深さ 0.2m で北から南西に弧を描いている。このグリッドだけ地山が確認されており、安定した遺構面と思われる。それ以外のグリッドは洪水堆積層で礫が多く見られた。南側調査地点が弥生～古墳時代の遺物が主体であったのに対して、この地域は中世の遺物が少量出土しているにとどまり二次堆積と思われる。

○まとめ

試掘調査の結果、主に大塚古墳周辺で遺構を確認した。明瞭な遺構も多く2面存在するところもある。弥生時代末から古墳時代にかけての遺構が主体と思われ、上面はそれ以降の時代と思われる。しかし、遺構を検出したものの不明確な地点もあり、一部2次確認調査が必要かと思われる。今回調査した北側は洪水堆積物が厚く見られ、長期間にわたっての礫層の堆積が確認され、遺構は確認できなかった。ただ、墓地周辺では古墳時代の須恵器を採集しており、古墳が存在した可能性がある。



山崎地区は場整備事業に伴う試掘調査グリッド位置図

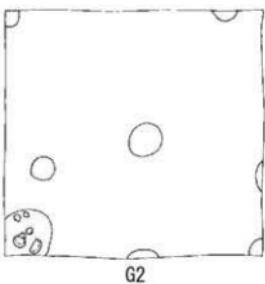
凡例	
45	遺構確認
51	なし
72	未調査
■	2次調査対象範囲
■	遺跡範囲

山崎試掘調査一覧

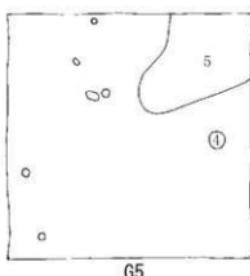
グリッドNo	調査日	小字名	遺構	面深さ(cm)	遺物	備考
1	11.16	前田	ピット	20		2次確認
2	11.16	前田	土坑 溝	30	土師器	
3	11.16	前田	土坑 落込み	25	土師器	
4	11.16	前田	落込み ピット	35		2次確認
5	11.16	前田				
6	11.17	堂塙内				
7	未	堂塙内				烟耕作
8	11.17	堂塙内	落込み ピット	25		
9	未	堂塙内				烟耕作
10	未	堂塙内				烟耕作
11	11.17	堂塙内	ピット			現代か
12	11.17	堂塙内	土坑 溝	40	土師器	南手櫻乱
13	11.17	堂塙内				櫻乱工場跡
14	11.18	五反田				
15	11.18	五反田	土坑 ピット	40		2面
16	11.18	五反田	土坑 溝 ピット	40	古式土師器	庄内裏
17	未	五反田				烟耕作
18	11.18	五反田				
19	11.18	五反田	落込み足跡	40	古式土師器	噴砂
20	11.19	五反田	ピット	45		
21	11.19	五反田	土坑	30	土師器	
22	未	福井				烟
23	11.19	福井	ピット 落込み	30		
24	11.19	福井	溝	30	古式土師器	
25	11.19	福井	土坑	20		2次確認
26	11.24	福井			土師器	
27	11.24	福井			土師器	
28	11.24	福井			土師器	
29	11.24	福井	溝	25		自然か?2次確認
30	11.24	福井	土坑	30		2次確認
31	福井					烟耕作
32	11.25	福井	ピット 土坑	30		2次確認
33	11.25	福井	ピット 土坑	30		2次確認
34	11.25	福井				
35	11.25	福井	ピット	35	古式土師器須恵器	
36	11.25	福井				三田青磁碗
37	11.26	福井			土師器	
38	11.26	福井	落込み	40	陶磁器	
39	11.26	福井	溝	35	土師器 須恵器	2面
40	11.30	大塚	土坑	30		2次確認
41	11.30	大塚	ピット	40	土師器	2次確認
42	未	大塚				烟
43	11.27	大塚	ピット	50	古式土師器	2次確認
44	11.27	大塚	ピット	30		2次確認
45	11.26	大塚	落込み 溝	25	古式土師器	
46	11.26	大塚	ピット	55	古式土師器	庄内裏
47	11.27	福井	ピット	30	古式土師器	
48	11.27	福井	ピット	60	土師器 磁器	
49	11.30	福井	ピット 土坑	60	土師器 須恵器	
50	11.30	福井	ピット 溝	30		
51	12.01	松田			土師器	
52	12.01	松田	暗渠			近代
53	12.01	松田	暗渠		土師器	古代
54	12.01	松田				
55	12.01	松田				
56	12.02	松田				
57	未	松田				調査不要
58	12.02	松田				
59	12.02	松田				
60	12.02	松田	ピット 溝	30	磁器碗	2面 2次確認
61	12.03	松田			土師器 丹波焼甕	
62	未	松田				烟
63	12.03	松田				
64	12.03	松田	落ち込み	70	土師器甕	古墳中期1個体
65	12.02	松田			土師器	自然地形
66	未	松田				調査不要
67	12.03	ムショノ元				
68	12.08	ムショノ元				
69	未	ムショノ元				調査不要
70	12.07	ムショノ元			土師器	
71	12.08	川田			土師器	
72	未	川田				調査不要

グリッドNo.	調査日	小字名	遺構	面深さ(cm)	遺物	備考
73	12.07	川田				
74	12.09	川田	落ち込み	50	炭	2次確認
75	12.10	川田	溝	50		2次確認
76	12.10	川田				
77	未	川田				烟 調査不要
78	12.10	川田			土師器	
79	12.10	川田			陶磁器	
80	未	川田				調査不要
81	12.03	ムショノ元	ピット			近世
82	12.08	ムショノ元				
83	12.07	ムショノ元			白磁碗	
84	12.07	ムショノ元	ピット	60		2次確認
85	12.07	ムショノ元	溝	40	土師器	
86	12.10	丁田				
87	12.14	丁田			土師器	
88	12.14	丁田				
89	12.09	丁田			土師器	
90	12.09	丁田			陶器碗	
91	12.14	丁田				
92	12.09	丁田			陶器碗	
93	12.09	丁田				
94	12.14	丁田			土師器 須恵器	
95		ムショノ元				
96	12.14	ムショノ元				
97	12.08	ムショノ元			土師器 磁器	
98	12.15	ムショノ元				
99	12.15	ムショノ元				
100	未	ムショノ元				
101	12.15	ムショノ元	溝	70		2次確認
102	12.15	ムショノ元			須恵器	
103	12.15	ムショノ元				
104	12.16	ムショノ元				
105	12.16	ムショノ元				
106	12.16	ムショノ元			土師器 須恵器	
107	12.16	ムショノ元				
108	12.17	ムショノ元				
109	12.17	ムショノ元				
110	12.17	ムショノ元	ピット	70		2次確認
111	12.16	ムショノ元				
112	12.17	ムショノ元				
113	12.22	ムショノ元			土師器	
114	12.22	ムショノ元				
115	12.17	ムショノ元				
116	12.22	ムショノ元			土師器皿	
117	12.22	ムショノ元			磁器碗	
118	12.22	ムショノ元				
119	12.23	ムショノ元			磁器	
120	12.23	ムショノ元				
121	12.23	ムショノ元				
122	12.23	ムショノ元			土師器 須恵器	
123	12.23	ムショノ元				
124	12.24	東野				
125	12.24	東野				
126	12.24	東野				
127	未	東野				工事外
128	12.24	東野				
129	12.24	東野			土師器 磁器	
130	未	東野				烟
131	未	東野			磁器 瓦	烟
132	未	東野				
133	未	東野				
134	12.25	東野			土師器皿	
135	12.25	東野				
136	12.25	東野				
137	1.07	東野			土師器鍋	
138	1.07	才垣	溝	40		
139	1.07	才垣				
140	1.08	才垣			土師器碗	
141	1.07	才垣			須恵器皿	
142	1.08	才垣				
143	1.08	才垣				
144	1.08	才垣				
145	1.09	才垣				
146	1.09	四ノ田				
147	1.09	四ノ田				

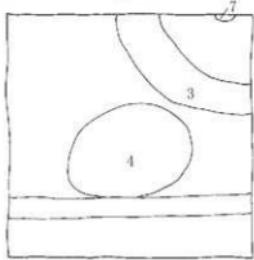
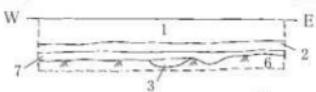
72.60m



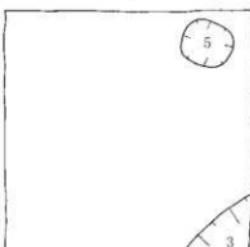
72.80m



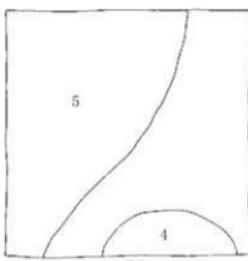
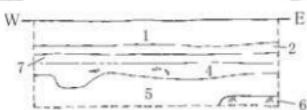
72.70m



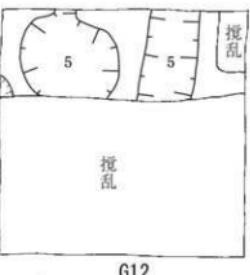
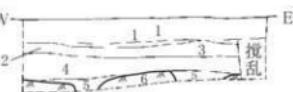
73.00m



72.80m

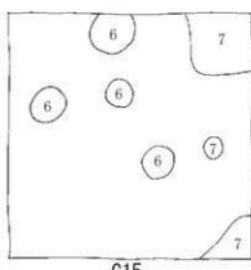
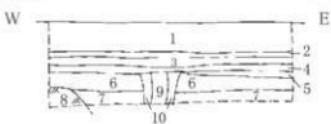


73.20m

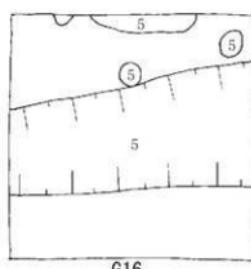


0 1 2m

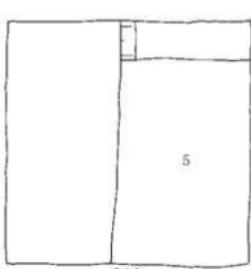
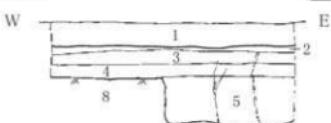
71.70m



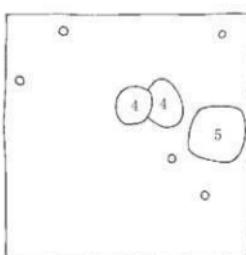
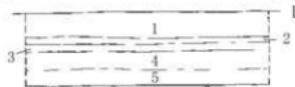
71.80m



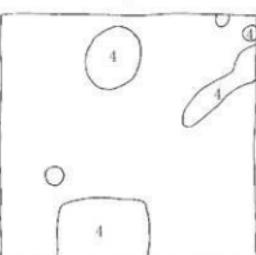
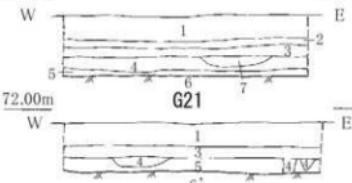
71.70m



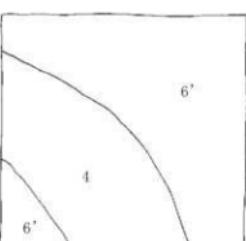
72.00m

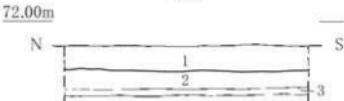
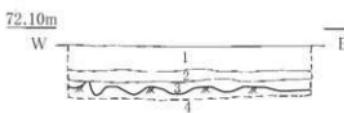
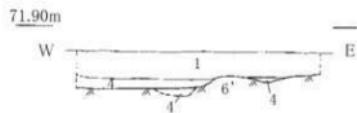


72.00m



72.00m



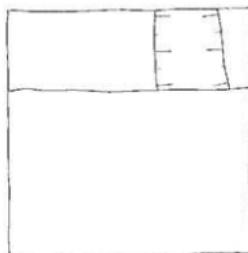
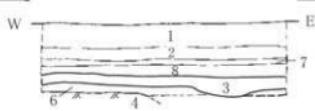


0 2m

71.90m

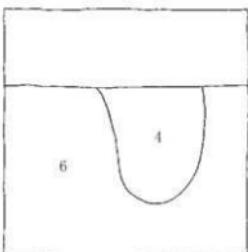
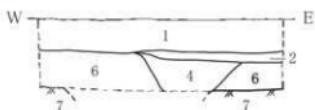


71.70m



G39

71.80m

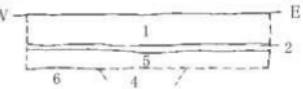


G40

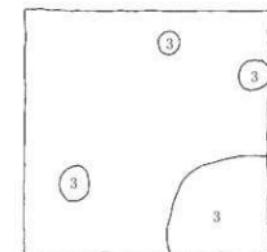
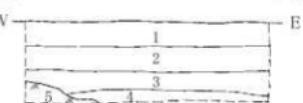
0

2m

72.40m

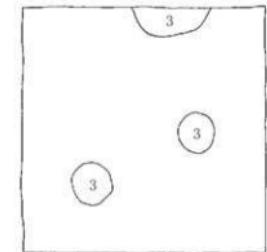
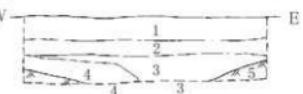


73.70m



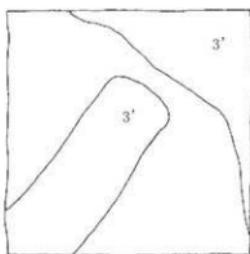
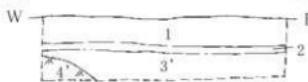
G43

73.70m



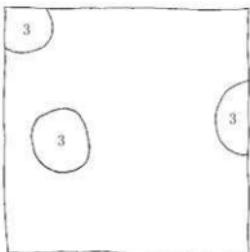
G44

73.70m



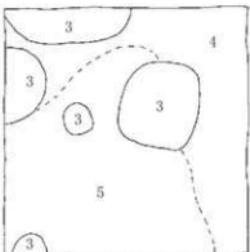
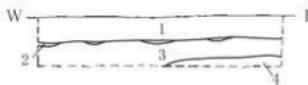
G45

73.70m



G46

73.30m

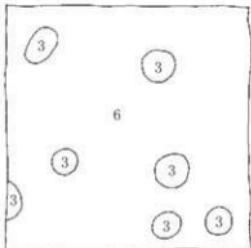
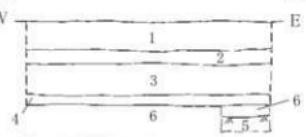


G47

0

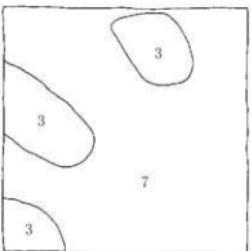
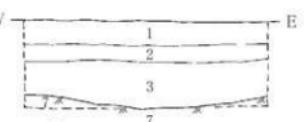
2m

73.40m



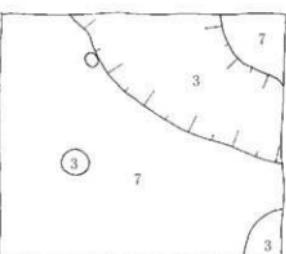
G48

73.40m



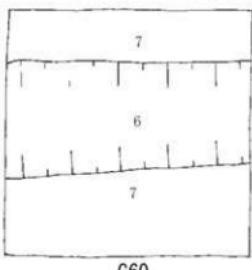
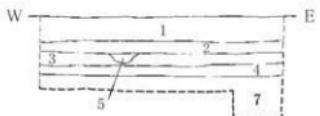
G49

73.00m

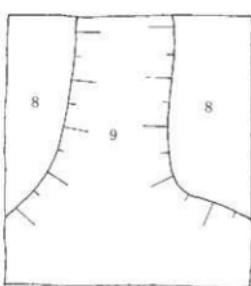
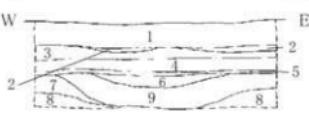


G50

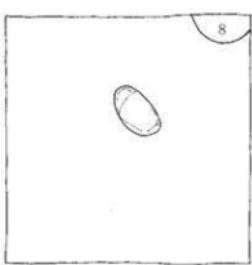
71.80m



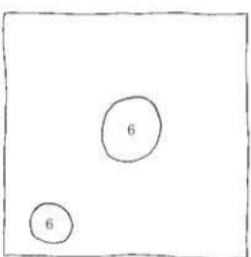
70.80m



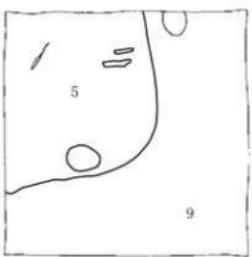
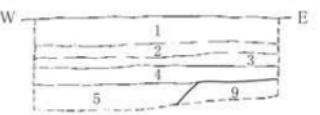
71.20m



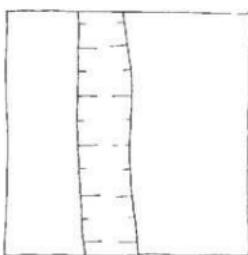
71.90m



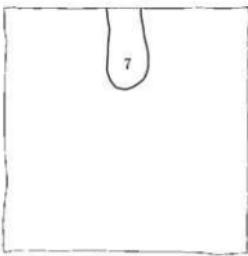
71.40m



71.90m

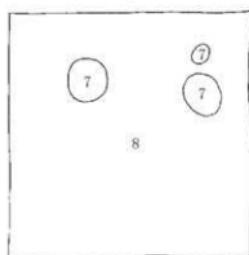
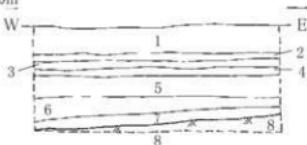


72.20m



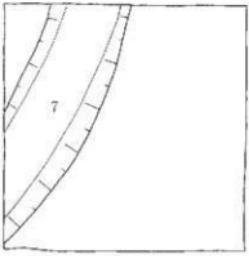
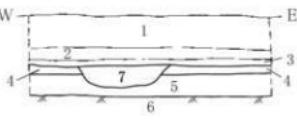
G101

71.20m



G110

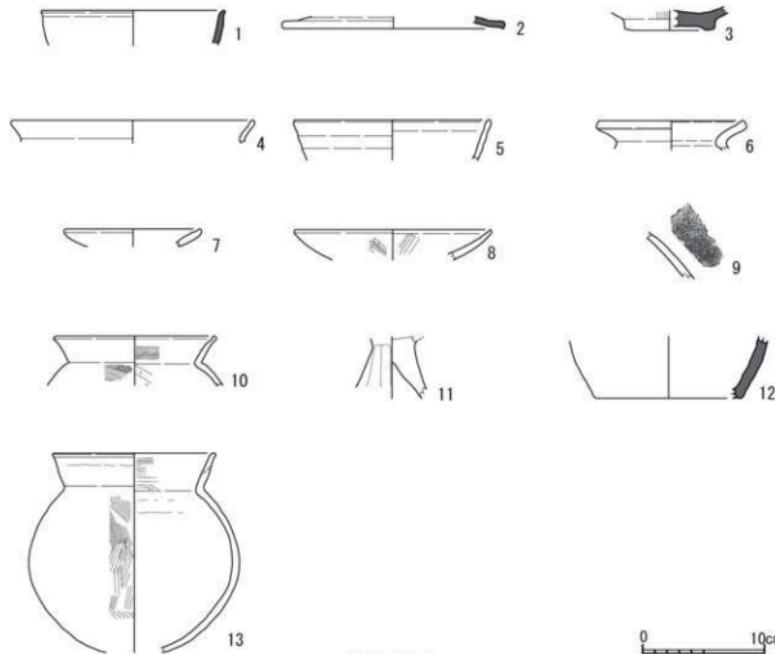
73.10m



G138

0 2m

G2 • G3 • G4 • G5		G10	
1 純土	1 純土	1 純土	
2 黒鶴 (10YK3/2) 極細砂	2 灰 黃鶴 (10YK5/2) 極細砂	2 灰 黃鶴 (10YK5/2) 極細砂	
3 鶴灰 (10YR4/1) シルト	3 黒 (10YR1,7/1) シルト質極細砂	3 灰 (10YR4/1) シルト質極細砂	
4 黒 (10YR1,7/1) シルト質極細砂	4 黒鶴 (10YK3/2) シルト質極細砂	4 黒鶴 (10YR4/1) シルト質極細砂	
5 黒鶴 (10YR3/2) シルト質極細砂	5 にふい 黄鶴～にふい 黃鶴 (10YR6/3～5/3) 円錐層	5 にふい 黄鶴～にふい 黃鶴 (10YR6/3～5/3) 円錐層	
6 黃鶴 (10YR5/6) シルト質極細砂 (地山)	6 墓場 (10YR4/2) シルト質極細砂	6 墓場 (10YR3/4) シルト質極細砂	
7 黄 鶴 (10YR4/2) 細砂		7 黄 鶴 (10YR5/3) 極細砂	
GK • G12	G10 • G11	G13	
1 純土	1 純土	1 純土	
2 鶴 (10YR4/4) シルト質極細砂	2 灰 黄鶴 (10YR4/2) 極細砂	2 灰 黄鶴 (10YR6/3) 細砂	
3 灰 黃鶴 (10YR4/2) 細砂	3 黒 (10YR1,7/1) シルト質極細砂	3 にふい 黄鶴 (10YR6/3) 細砂	
4 墓場 (10YR3/3) シルト質極細砂	4 黒鶴 (10YR3/1) 細砂	4 黑鶴 (10YR4/2) 細砂	
5 黒 (10YR1,7/1) シルト質極細砂	5 錫少 (2)	5 黑 (2,5Y5/4) 中砂	
6 にふい 黄鶴 (10YR7/4) シルト質極細砂	6 墓灰 (10YR4/1) 細砂	6 墓灰 (10YR4/1) 中砂	
7 鶴灰 (10YR4/1) 細砂	7 黃鶴 (10YR5/6) 極細砂 (地山)	7 黃鶴 (10YR5/3) 極細砂	
8 にふい 黄鶴 (10YR6/3) 細砂 (地山)			
9 10層と 8 層の混ざった層			
10 黄 鶴 (2,5Y5/2) シルト質極細砂			
G20 • G21 • G23 • G24 • G25	G60		
1 純土	1 純土	1 純土	
2 灰 黃鶴 (10YR4/2) シルト質極細砂	2 にふい 黄鶴 (2,5Y5/4) 極細砂	2 にふい 黄鶴 (2,5Y5/4) 極細砂	
3 にふい 黄鶴 (10YR4/3) シルト質極細砂	3 黃鶴 (2,5Y5/4) 極細砂	3 黃鶴 (2,5Y5/4) 極細砂	
4 灰 黃鶴 (10YR4/2) シルト質極細砂	4 黑 (2,5Y5/2) 極細砂	4 黑 (2,5Y5/2) 極細砂	
5 黒 (10YR1,7/1) シルト質極細砂	5 黃灰 (2,5Y5/2) 細砂	5 黃灰 (2,5Y5/2) 細砂	
6 にふい 黄鶴 (10YR7/4) シルト質極細砂	6 墓灰 (10YR4/2) 細砂	6 墓灰 (10YR4/2) 細砂	
7 墓場 (10YR4/1) 細砂	7 黃鶴 (2,5Y5/4) シルト	7 黃鶴 (2,5Y5/4) シルト	
8 にふい 黄鶴 (10YR6/3) 細砂 (地山)	8 黑鶴 (10YR6/4) シルト質極細砂	8 黑鶴 (10YR6/4) シルト質極細砂	
9 10層多く入る	9 灰 黃鶴 (10YR4/2) 極細砂	9 灰 黃鶴 (10YR4/2) 極細砂	
7 3層と 4層の混ざった層			
G29 • G30	G64 • G74	G75	
1 純土	1 純土	1 純土	
2 灰 黃鶴 (10YR4/2) 細砂	2 にふい 黄鶴 (10YR6/3) 極細砂	2 にふい 黄鶴 (10YR6/3) 極細砂	
3 黒 (10YR1,7/1) シルト質極細砂	3 黃鶴 (10YR6/6) シルト質極細砂	3 黃鶴 (10YR6/6) シルト質極細砂	
4 黑鶴 (10YR3/2) シルト質極細砂	4 にふい 黄鶴 (10YR1/3) 極細砂	4 にふい 黄鶴 (10YR1/3) 極細砂	
5 にふい 黄鶴 (10YR6/4) 細砂 (地山)	5 墓場 (10YR3/4) 極細砂	5 墓場 (10YR3/4) 極細砂	
6 墓場 (10YR3/2) 極細砂	6 にふい 黄鶴 (10YR4/3) 細砂	6 にふい 黄鶴 (10YR4/3) 細砂	
7 3層と 4層の混ざった層	7 にふい 黄鶴 (7,5Y5/2) 中砂	7 にふい 黄鶴 (7,5Y5/2) 中砂	
G32 • G33	G64	G75	
1 純土	1 純土	1 純土	
2 墓場 (10YR3/3) 極細砂	2 にふい 黄鶴 (10YR6/3) 極細砂	2 にふい 黄鶴 (10YR6/3) 極細砂	
3 墓水赤 (5YR3/4) 中～細砂 マンガン含む	3 黃鶴 (10YR5/1) 極細砂 (小錐含む)	3 黃鶴 (10YR5/1) 極細砂 (小錐含む)	
4 にふい 黄鶴 (10YR5/4) 細砂 (地山)	4 にふい 黄鶴 (10YR4/3) 細砂	4 にふい 黄鶴 (10YR4/3) 細砂	
G35	G64	G75	
1 純土	1 純土	1 純土	
2 鶴灰 (10YR4/1) シルト質極細砂	2 墓灰 (10YR5/1) 極細砂	2 墓灰 (10YR5/1) 極細砂	
3 にふい 黄鶴 (10YR5/3) シルト質極細砂	3 にふい 黄鶴 (10YR5/4) シルト質極細砂	3 にふい 黄鶴 (10YR5/4) シルト質極細砂	
4 黒 (10YR1,7/1) シルト質極細砂	4 にふい 黄鶴 (10YR4/3) 細砂	4 にふい 黄鶴 (10YR4/3) 細砂	
5 墓場 (10YR3/3) 極細砂 マンガン含む	5 墓場 (10YR3/2) 極細砂	5 墓場 (10YR3/2) 極細砂	
6 にふい 黄鶴 (10YR5/4) シルト質極細砂 (地山)	6 墓灰 (10YR4/1) 細砂	6 墓灰 (10YR4/1) 細砂	
G38 • G39 • G45 • G46	G65	G75	
1 純土	1 純土	1 純土	
2 灰 黃鶴 (10YR5/2) 極細砂	2 にふい 黄鶴 (5YR6/2) 極細砂	2 にふい 黄鶴 (5YR6/2) 極細砂	
3 色錠回びが汚穢入る	3 黑 (10YR4/1) シルト質極細砂	3 黑 (10YR4/1) シルト質極細砂	
4 にふい 黄鶴 (10YR5/3) シルト質極細砂 (地山)	4 にふい 黄鶴 (10YR5/4) シルト質極細砂	4 にふい 黄鶴 (10YR5/4) シルト質極細砂	
4' 丹錠層	5 墓場 (10YR3/2) 極細砂	5 墓場 (10YR3/2) 極細砂	
5 黑鶴 (10YR3/2) シルト質極細砂	6 墓灰 (10YR4/1) 細砂	6 墓灰 (10YR4/1) 細砂	
6 鶴灰 (10YR4/1) シルト質極細砂	7 丹錠 (10YR2/2) 極細砂	7 丹錠 (10YR2/2) 極細砂	
7 黑鶴 (10YR3/1) シルト質極細砂			
8 墓場 (10YR3/3) シルト質極細砂			



遺物実測図

番号	種別	器種	調査区	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	陶磁器	碗	G92	(15.0)	残2.9				
2	陶磁器	蓋	G46	(18.0)	残1.0				
3	陶磁器	碗	G83		残1.9	(7.4)			
4	土篩器	斐	G47	(19.8)	残1.9				
5	土篩器	梳	G49	(16.0)	残3.3		ヨコナデ	ヨコナデ	
6	弥生土器	斐	G47	(11.8)	残2.4		ヨコナデ	ヨコナデ	
7	土篩器	皿	G140	(11.0)	残1.4		ヨコナデ	ヨコナデ	
8	土篩器	皿	G19	(16.0)	残1.35		ヘラミガキ	ヘラミガキ	
9	土篩器	壺	G47		残5.5		波状文		
10	土篩器	斐	G16	(12.8)	残4.1		タタキ・ハケメ	ハケメ・ヘラケズリ	
11	土篩器	器台	G46		残5.1		ヘラミガキ		
12	陶磁器	壺	G61		残5.1	(12.0)	ハケメ	ハケメ	
13	土篩器	斐	G64	(13.2)	残16.3		ハケメ	ハケメ	

遺物観察表



出土土器



G 1 機械掘削



G 1 人力掘削



G 1 (南から)



G 1 埋め戻し後



G 2 機械掘削



G 2 (南から)



G 3 (南から)



G 4 調査区 (南から)



G 4 (北から)



G 4 (南から)



G 5 (南から)



G 8 (南から)



G 11・G 13 調査区 (北から)



G 11 (南から)



G 12 (南から)



G 13 (南から)



G 14 周辺（北から）



G 15（南から）



G 15 北壁とピット



G 15 埋め戻し後



G 16 人力掘削



G 16（南から）



G 19 噴砂



G 19（南から）



G 19 足跡



G 19 埋め戻し状況



大塚古墳（南東から）



大塚古墳（南西から）



G 20 調査風景



G 20（南から）



G 21（南から）



G 23（南から）



G 23 から北側



G 24 南崖面



G 24 (南から)



G 25 (南から)



G 26 (南から)



G 27 (南から)



G 28 (南から)



G 29 機械掘削



G 29 (南から)



G 30 (南から)



G 32 人力掘削



G 32 (南から)



G 33 機械掘削



G 33 (南から)



G 33 北壁



G 34 (南から)



G 34 から西側



G 35 (南から)



G 35 上面ピット (東から)



G 36 断割り北壁



G 36 から大塚古墳



G 37 (南から)



G 37 調査風景



G 38 (南から)



G39 (南から)



G41 (南から)



G43 (南から)



G44 (南から)



G45 (南から)



G46 (南から)



G47 (南から)



G47 埋め戻し状況



G 48 (南から)



G 48 断割り (南から)



G 49 機械掘削



G 49 遺構検出状況



G 50 (南から)



G 52 (南から)



G 53 (南から)



G 54 (南から)



G 56 重機掘削



G 56 (南から)



G 58 (南から)



G 59 (南から)



G 60 (南から)



G 61 埋め戻し



G 63 調査風景



G 63 (南から)



G 64 (南から)



G 64 ピット検出状況



G 67 (南から)



G 67 人力掘削



G 64 から北側



G 68 (南から)



G 70 (南から)



G 73 (南から)



G74 人力掘削



G74 (南から)



G78 (南から)



G79 (南から)



G81 重機掘削



G81 (南から)



G82 (南から)



G83 人力掘削



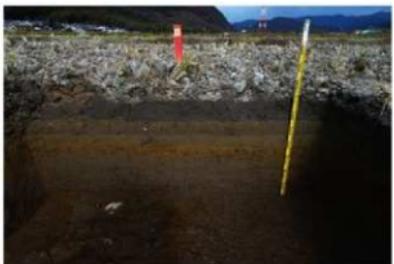
G84 (南から)



G85 (南から)



G87 (南から)



G88 (南から)



G91 人力掘削



G91 (南から)



G93 (南から)



G96 (南から)



G 97 (南から)



G 98 (南から)



G 101 (南から)



G 102 (南から)



G 103 (南から)



G 104 (南から)



G 105 機械掘削



G 107 (南から)



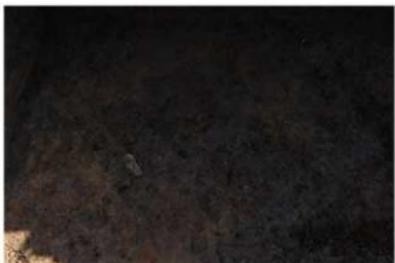
G 108 (南から)



G 109 (南から)



G 110 (南から)



G 110 ピット検出状況



G 111 機械掘削



G 111 (南から)



G 112 (南から)



G 113 (南から)



G 115 (南から)



G 118 (南から)



G 119 (南から)



G 121 人力掘削



G 121 (南から)



G 121 埋め戻し状況



G 123 (南から)



G 123 から西側



G124 (南から)



G126 (南から)



G128 人力掘削



G128 (南から)



G134 (南から)



G134 埋め戻し状況



G136 (南から)



G137 (南から)



G 138 (南から)



G 138 (南から)



G 139 調査準備



G 139 (南から)



G 140 (南から)



G 140 人力掘削



G 141 (南から)



G 142 (南から)



G 143 (南から)



G 143 から南東方向



北端 (G 137) から南側



G 145 (南から)



G 145 から北側



G 146 (南から)



G 147 (南から)



重機回送

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	埋蔵文化財調査報告書
副書名	令和2年度発掘調査報告
シリーズ名	福崎町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	26
編著者名	樋口 碧・渡辺 昇
編集機関	福崎町教育委員会
所在地	〒679-2280 兵庫県神崎郡福崎町南田原 3116-1 TEL: 0790-22-0560
発行年月日	2022年8月31日

所取遺跡名	所在地	コード		北緯度分秒	東経度分秒	調査期間	調査面積m ²	要因
		市町村	遺跡番号					
おおぬきあざなみのうちじしきつ 大貫字谷之内西試掘	兵庫県神崎郡福崎町大貫字谷之内西 1670-13	28443		34 度 57 分 00 秒	134 度 47 分 20 秒	2020 年 4 月 2 日	8	試掘
にじわらあざなしものだしきつ 西田原字下野田試掘	兵庫県神崎郡福崎町西田原字下野田 1745 番、1746 番	28443		34 度 57 分 01 秒	134 度 46 分 00 秒	2020 年 4 月 6 日	8	試掘
ふくさきじふあざまちだしきつ 福崎新字町田試掘	兵庫県神崎郡福崎町新字町田 394-1 他	28443		34 度 57 分 07 秒	134 度 45 分 05 秒	2020 年 4 月 15 日	16	試掘
ふくだりがしたさいせき 福田東田黒遺跡 (第2次)	兵庫県神崎郡福崎町福田字東田黒 125-3 他	28443	410134	34 度 57 分 44 秒	134 度 45 分 22 秒	2020 年 4 月 21 日	16	確認
おおぬきあざなみのうちじしきつ 大貫字南垣内試掘	兵庫県神崎郡福崎町大貫字南垣内 391 番 1	28443		34 度 56 分 35 秒	134 度 47 分 05 秒	2020 年 4 月 27 日	4	試掘
おおぬきあざなみのうちじしきつ 南田原字北西試掘	兵庫県神崎郡福崎町南田原字北西 2713 番 12	28443		34 度 57 分 05 秒	134 度 45 分 24 秒	2020 年 5 月 19 日	12	試掘
にじわらあざまちのだしきつ 西田原字上野田試掘	兵庫県神崎郡福崎町西田原字上野田 1828 番他	28443		34 度 57 分 11 秒	134 度 46 分 04 秒	2020 年 5 月 25 日	24	試掘
ひじりあざまちのうとうじしきつ 東田原字山ノ上試掘	兵庫県神崎郡福崎町東田原字山ノ上 107	28443		34 度 57 分 22 秒	134 度 46 分 29 秒	2020 年 5 月 25 日	4	試掘
おおぬきあざごつるいじしきつ 八十種字小鶴池試掘	兵庫県神崎郡福崎町八十種字小鶴池 4114-39	28443		34 度 56 分 06 秒	134 度 46 分 30 秒	2020 年 5 月 27 日	18	試掘
やまきあざないのかくしきつ 山崎字オノ神試掘	兵庫県神崎郡福崎町山崎字オノ神 643-2	28443		34 度 57 分 56 秒	134 度 45 分 11 秒	2020 年 5 月 27 日	8	試掘
ふくさきじふあざまちのうとうじしきつ 福崎新字東出口試掘	兵庫県神崎郡福崎町福崎新字東出口 217 番 1,217 番 8	28443		34 度 57 分 14 秒	134 度 45 分 10 秒	2020 年 6 月 8 日	8	試掘

所取遺跡名	所在地	コード		北緯度分秒	東経度分秒	調査期間	調査面積m ²	要因
		市町村	遺跡番号					
やぐさくあざらがいじくつ 八千種字裏垣内試掘	豊田市神崎町福崎町八千種字裏垣内 3640-5	28443		34 度 56 分 27 秒	134 度 46 分 46 秒	2020 年 9月 3 日	4	試掘
ふくであざでちの しあくくつの 福田寺下ノ下試掘	豊田市神崎町福崎町福田寺下ノ下 499-1	28443		34 度 57 分 42 秒	134 度 44 分 55 秒	2020 年 9月 14 日	4	試掘
ふくであざながいじくつ 福田字中垣内試掘	豊田市神崎町福崎町福田字中垣内 849-2	28443		34 度 57 分 51 秒	134 度 44 分 53 秒	2020 年 9月 23 日	4	試掘
ひがしかわらあざきの しゃしきくつ 東田原字北屋敷試掘	豊田市神崎町福崎町東田原字北屋敷 61	28443		34 度 57 分 25 秒	134 度 46 分 25 秒	2020 年 9月 28 日	4	試掘
にじからわあざみちの たしくつ 西田原字道北試掘	豊田市神崎町福崎町西田原字道北 1106-3	28443		34 度 57 分 22 秒	134 度 45 分 51 秒	2020 年 10月 5 日	132	試掘
あさかわんじゆうりゆうき 南田原条里遺跡 (第 46 次)	豊田市神崎町福崎町南田原条里ノ上 2251 番 2 他	28443	410046	34 度 56 分 39 秒	134 度 45 分 27 秒	2020 年 10月 21 日	4	確認
きたのまんじよ 北野散布地 (第 10 次)	豊田市神崎町福崎町西田原字野 898 番 1 他	28443	410113	34 度 57 分 22 秒	134 度 46 分 10 秒	2020 年 11月 4 日	32	確認
にじからわあざみだしきくつ 西田原字前田試掘	豊田市神崎町福崎町西田原字前田 1697 他	28443		34 度 57 分 07 秒	134 度 45 分 53 秒	2020 年 11月 10 日	20	試掘
みなみからわあざみだの おとじ 南田原字北ノ垣内 試掘	豊田市神崎町福崎町南田原字北ノ垣内 1788-1、1795	28443		34 度 56 分 49 秒	134 度 45 分 59 秒	2020 年 11月 11 日	8	試掘
やぐさくあざりの じくつ 八千種字廣野試掘	豊田市神崎町福崎町八千種字廣野 1141	28443		34 度 55 分 59 秒	134 度 47 分 13 秒	2020 年 12 月 2 日	4	試掘
たどあざこ や がいじしきくつ 田口字小屋垣内試掘	豊田市神崎町福崎町田口字小屋垣内 250-1 他	28443		34 度 59 分 03 秒	134 度 43 分 32 秒	2020 年 12 月 3 日	8	試掘
きたのまんじよ 北野散布地 (第 11 次)	豊田市神崎町福崎町西田原字向 下廣岡 965-1	28443	410113	34 度 57 分 21 秒	134 度 46 分 07 秒	2021 年 1月 28 日	2	確認
みなみからわあざながい き しきくつ 南田原字金垣内試掘	豊田市神崎町福崎町南田原字金垣内 1622 他	28443		34 度 56 分 57 秒	134 度 46 分 03 秒	2021 年 3月 4 日	20	試掘
おおあざわらあざながい の とくの 大質室字尾試掘	豊田市神崎町福崎町大質字尾 2276 番	28443		34 度 57 分 07 秒	134 度 46 分 53 秒	2021 年 3月 16 日	4	試掘
かわかわ ふくたとうじ 高岡・福田地区 はうせうじ は整備事業に伴う しつくづくみ 試掘確認	豊田市神崎町福崎町高岡	28443		34 度 58 分 11 秒	134 度 44 分 17 秒	2020 年 9月 15 日 10月 12 日、14 日	36	試掘
かわかわ ふくたとうじ 山崎地区 はうせうじ は整備事業に伴う しつくづくみ 試掘	豊田市神崎町福崎町山崎	28443		34 度 57 分 24 秒	134 度 45 分 27 秒	2020 年 11月 16 日～ 2021 年 1月 9 日	508	試掘

2022年8月31日 印刷

2022年8月31日 発行

埋蔵文化財調査報告書
令和2年度発掘調査報告
福崎町埋蔵文化財調査報告26

発行 兵庫県神崎郡福崎町南田原 3116-1
福崎町教育委員会

印刷 山野印刷株式会社

